



河木玉代一巻

リ伊5  
1088  
7止





門外5  
卷 1088  
7



日本王代一覽卷之七目錄

三 後花園院

在位卅六年

- 一。應仁
- 二。文明
- 三。長祿
- 四。寬正
- 五。

四 後土御門院

在位卅六年

- 一。應仁
- 二。文明
- 三。長祿
- 四。寬正
- 五。

五 後柏原院

在位卅六年

- 一。應仁
- 二。文明
- 三。長祿
- 四。寬正
- 五。

六 後奈良院

在位卅一年

- 一。應仁
- 二。文明
- 三。長祿
- 四。寬正
- 五。

七 正親町院

在位卅九年

- 一。應仁
- 二。文明
- 三。長祿
- 四。寬正
- 五。

明治五年九月廿七日

森鴻以郎

永亨十一

文安五

享德二

長祿三

寬正

自寬正六

應仁二

文明

十八

長亨二

延

德三

明應九

文龜三

永正

丁

七

大末

七

享祿

四

天文九

三

弘

治三

未祿十

元龜

三

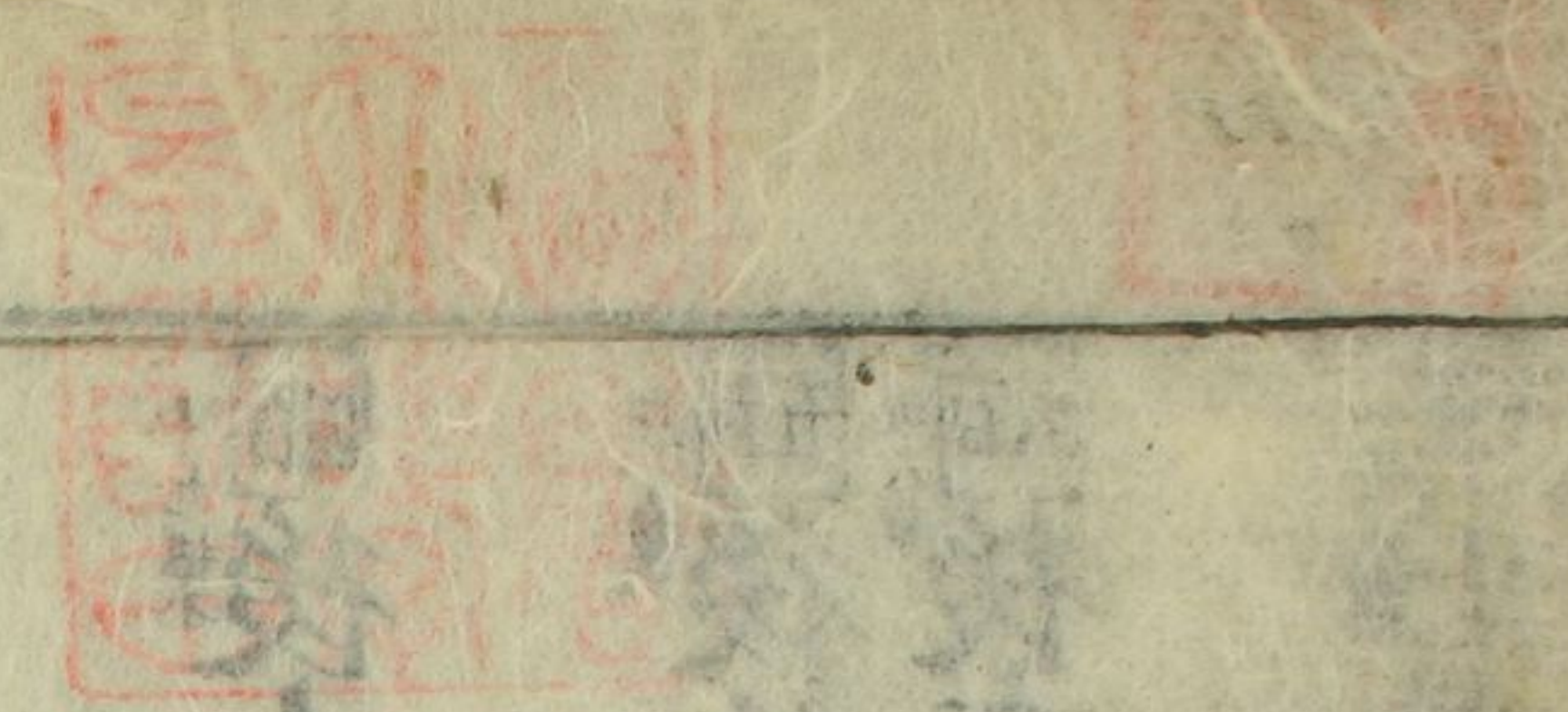
天正十四



日本王代一覽卷之七

百三代

後花園 諱ハ彦仁。崇光院ノ曾孫ナリ。崇光院ノ子  
 フ榮仁親王ト云。大通院ト號ス。大通院ノ子ヲ無  
 品親王貞成ト云。即是彦仁ノ父ナリ。母ハ數政門  
 院贈左大臣經有カ娘也。觀應ノ乱ニ崇光院南方  
 ニ囚レ給テ。御弟後光嚴即位ニシマス。崇光院ハ南  
 方ヨリ飯タマヒテ後。伏見殿ニウツリニシマス。持明  
 院殿ノ皇統ノ嫡流ナルユヘ。後光嚴院次ノ御位ニハ  
 榮仁親王ヲト。崇光院ヲホシメスト云トモ。武家許  
 容ナキニヨリテ。後圓融後小松稱光相續シタマヘハ。  
 伏見殿ニハ。崇光院ステニ崩御アリテ榮仁ノ時ニ



日本王代一覽卷之七  
 百三代  
 後花園 諱ハ彦仁。崇光院ノ曾孫ナリ。崇光院ノ子  
 フ榮仁親王ト云。大通院ト號ス。大通院ノ子ヲ無  
 品親王貞成ト云。即是彦仁ノ父ナリ。母ハ數政門  
 院贈左大臣經有カ娘也。觀應ノ乱ニ崇光院南方  
 ニ囚レ給テ。御弟後光嚴即位ニシマス。崇光院ハ南  
 方ヨリ飯タマヒテ後。伏見殿ニウツリニシマス。持明  
 院殿ノ皇統ノ嫡流ナルユヘ。後光嚴院次ノ御位ニハ  
 榮仁親王ヲト。崇光院ヲホシメスト云トモ。武家許  
 容ナキニヨリテ。後圓融後小松稱光相續シタマヘハ。  
 伏見殿ニハ。崇光院ステニ崩御アリテ榮仁ノ時ニ



至テ。御領モ減少シ。應永二十三年。榮仁薨ス。貞成  
其跡ヲ續テ。弥衰微ス。サレトモ後小松上皇ノ仰ニ  
テ。無品親王ニ宣下セラレ。稱光院逆鱗ニヨリテ。貞  
成剃髮シテ。道欽ト号ス。

正長元年。稱光院不創。儲君ナキニヨリテ。七月十  
二日。世尊寺宮内卿行豊。伏見へ赴キ。道欽ニ逢テ。  
室町殿源義宣ノ旨ヲ述テ。疾仁出京アルヘキ由ヲ  
告ギカシメ。翌日管領畠山満家人道道端カ手ノ  
者トモ四五百人。御迎ニ来テ。東山若王子へ入御  
スレマス。赤松左京大夫満祐警固ス。武家ヨリ二  
條関白持基ヲ以テ。後小松上皇へ申シ。疾仁ヲ御  
養子ニ定メラル十七日。若王子ヨリ仙洞へ参々マ

フ。月卿雲客數輩供奉。畠山満家。并其子尾張守  
持國。路次ヲ警固ス。二十日。稱光院崩ス。二十九日  
疾仁踐祚。時十歳。関白持基攝政。同年十二月  
南方ノ小倉殿トテ。吉野ノ帝ノ末。嵯峨ニシワセシガ。  
帝位ヲ望。ヒソカニ伊勢へ逃下リ。彼國司ヲカタラヒ  
兵ヲ起ス。土岐興安ト戰テ。國司ハ討レヌ。小倉殿ハ  
降参シ。又嵯峨ニ住ス。其子ハ勸修寺門跡ノ弟子  
トナル。

永享元年。二月九日。左馬頭源義宣室町殿ニテ  
元服。畠山尾張守持國加冠タリ。義宣時ニ三十六  
歳ナリ。同月十五日。義宣參議ニ任シ。左中將  
ヲ兼テ。征夷大將軍ニ補シ。名ヲ義教ト改ム。同



月二十三。日。義教參内院參。二十九日。權大納言  
二任。從二位二叙。四月。義教公家様ノ判始  
アリ。八月。義教石清水詣。同日。義教奉行人  
ノ規式ヲ定メ。諸國關所ノ沙汰アリ。斯波右兵衛  
督義淳管領ニ再任ス。同日。攝政持基左府ヲ辞ス。  
一條右府兼良左府ニ任ス。近衛内府房嗣右府ニ  
任ス。久我大納言源清通内府ニ任ス。義教右大  
將ニ任。九月。義教日吉春日參詣。十二月。義  
教從二位二叙。同日。御即位ノ禮行ル。  
二年正月。義教馬寮御監トナル。十月。義教從  
一位ニ叙ス。同日。御襖行幸。右大將義教供奉  
同日。道欽伏見ヨリ來テ。義教ニ謁ス。義教并百

官伏見ニ往テ賀ス。十一月。大嘗會  
三年二月。義教伊勢參宮。三月。後小松上皇落  
飾。四月。義教高野參詣。十二月。義教室町ノ  
新亭ヲ營テ移任ス。  
四年三月。義教信濃ノ小笠原政康ヲ弓ノ師トス  
七月。攝政持基太政大臣ニ任ス。明年。主上元服。  
加冠スヘキニヨリテナリ。源清通内府ヲ辞ス。義教  
内府ニ任ス。八月。持基攝政ヲ辞ス。一條左府  
兼良攝政トナリテ左府ヲ辞ス。義教左大臣ニ任  
ス。右大將元ノ如シ。大炊御門大納言信宗内府ニ  
任ス。九月。義教富士山見物。駿河ニ赴ク。國主  
今川範政迎接ス。飛鳥井中納言雅世并法印堯



孝等モ供奉倭歌アリ。或説ニハ義教此時ステニ鎌倉ヲ滅サントノ志アリ。故ニ富士一見ニ事寄テ。關東ノ事ヲ見聞シテ入ナリト云リ。十月兼良攝政ヲ辞ス。二條持基再攝政。十二月義教大臣拜賀鷹司大納言房平等扈從。同日義教殿上別當院大別當ニ補シ。淳和學兩院別當源氏長者タリ。牛車ヲ聽サ。今年細川右京大夫持之管領ニ任ス。同年使者ヲ大明へ使ス。朝鮮人來朝。五年正月主上十五歲元服。二條攝政相國持基加冠タリ。左大臣源義教理髮タリ。後小松上皇元服ノ時。二條良基加冠。麻苑院殿理髮ノ例也。

二月持基相國ヲ辞シ。三月復辟シテ。關白トナル。四月義教自筆ニ。應神神功緣起ヲ書シテ。河内譽田八幡宮ニ納ム。六月大明ノ宣宗皇帝書簡ヲ義教ニ寄テ。日本國王源義教ト書セリ。八月義教大將ヲ辞ス。十月後小松法皇崩ス。年五十七。六年五月唐船來朝。七年四月鷹司大納言房平内府ニ任ス。八月山門嗽訖ノ事アリテ。日吉神輿動座義教武士ヲシテ。翻山ヲ攻シム。八年信濃國守護小笠原政康ト。同國ノ士村上某ト。確執アリテ合戦ニ及ブ。村上加勢ヲ鎌倉ニ請



ケレバ持氏許容シ。桃井ヲ大將トシ。ステニ出陣セシメ  
ントス。上杉安房守憲實聞テ。信乃ハ関東ノ領ニア  
ラス。京都將軍ノ御下知タルヘシ持氏ノイロヒ如何ト  
申ニヨリテ止ス。勝定院殿義持薨スル時繼嗣ナキ  
ユヘ持氏入洛シ。將軍タラント思レシニ。義教還俗シ。  
武將タルユヘ持氏常ニ不快ニテ。京ヲ攻トス。憲實  
時々諫ルニヨリテ。其君臣ノ間睦シカラス。  
九年四月。鎌倉持氏密ニ上杉憲直一色直兼ヲ  
シテ。上杉憲實ヲ討シ。事アハレテ。鎌倉騷動ス。  
持氏自ラ憲實カ山内ノ宅へ趣テ和解シ。憲直直  
兼。鎌倉ヲ追出サレテ。暫無爲ナリ。十月廿二日。  
義教館へ行幸。関白以下。百官皆供奉。詩歌管絃

ノ御遊アリ。廿六日還幸

十年八月。飛鳥井中納言藤原雅世新續古今優  
歌集ヲ奏覽ス。古今後撰拾遺後拾遺金葉詞花  
千載新古今ヲ八代集ト云。其事既ニ上ニ見ヘタリ。  
八代集ノ後ニ後堀河院ノ時藤原定家新勅撰  
ヲ撰シ。後嵯峨院ノ院宣ニテ藤原爲家續後撰ヲ撰  
シ。同院ノ仰ニテ爲家并藤原光俊等五人續古今  
ヲ撰シ。龜山院ノ仰ニテ藤原爲氏續拾遺ヲ撰シ。  
後宇多院ノ仰ニテ藤原爲世新後撰ヲ撰シ。伏見  
院ノ仰ニテ藤原爲兼玉葉集ヲ撰シ。後宇多院ノ  
仰ニテ藤原爲世又續千載ヲ撰シ。後醍醐ノ詔  
ニテ藤原爲藤其子爲定續後拾遺ヲ撰シ。花園



院自風雅集ヲ撰ス。後光嚴ノ詔ニテ藤原爲定新  
千載ヲ撰シ。同時藤原爲明新拾遺ヲ撰シ。後圓  
融ノ勅ニテ藤原爲遠藤原爲重新後拾遺ヲ撰ス。  
今新續古今ヲ加テ二十一代集ト号ス。同月  
義教左府ヲ辭ス。九月近衛右府房嗣左府ニ  
任ス。鷹司房平右府ニ任ス。西園寺大納言公名内  
府ニ任ス。今年六月鎌倉持氏が長男賢王丸  
元服ノ沙汰アリ。先例ニマカセ。京都將軍ノ諱ノ字  
ヲ受ラレ然レト。上杉安房守憲實申ケレトモ許容  
ナク。遠ク義家ノ例ヲ追ベレトテ鶴岳八幡ニテ元  
服セシメ。義久ト号ス。憲實來テ賀セバ即誅スベレト  
議ス。憲實病ト稱シテ其弟重方ヲレテ賀セシムコト

ヨリ上下弔看シテ和睦トノホラス。八月持氏  
兵ヲアツメテ山ノ内ヲ攻トス。憲實自害セントス。其家  
人ノ抑留ニヨリテ山ノ内ヲ出テ上野ノ國へ赴テ。此  
趣京都へ申ス。持氏スナハチ丁色直兼一色持家ヲ  
シテ憲實ヲ攻シメ持氏モ鎌倉ヲ出武州高安寺ニ  
陣ス。三浦介時高ヲ鎌倉ノ留守トス。十月京都  
ヨリ義教ノ御教書ニ綸旨ヲ添テ持氏追討スベキ由  
憲實ニ命セラレ。三浦介并関東ノ武士ニモ其旨ヲ  
相觸ラル。又上杉中務少輔持房ニ旗ヲ授ケ海道ノ  
兵ヲ催シ鎌倉ヲ攻シム。今川上総介範忠并二小笠  
原政康武田信重等以下發向ス。上杉治部大輔  
教朝ハ北陸道ヨリ進發ス。持房教朝ハ禪秀カ子



ナリ。関東ノ武士持氏ニ背モノ多シ。三浦時高モ謀  
 叛シ却テ鎌倉ヲ放火ス。持氏武州海老名ニ陣シテ  
 上杉憲直ヲ遣シテ京勢ヲ防シ。相模早河虎ニテ  
 合戦憲直敗軍ス。京勢箱根ヲ越テ進ム。持氏重テ  
 木戸持季ヲ遣シテ防シム。一色直兼時家モ憲實  
 ニ打負テ海老名へ敗ル。憲實上野ヲ出テ武州分  
 倍ニ陣ス。十一月。三浦持高等鎌倉ヲ攻テ。義久  
 ヲ生虜。扇谷ニ押籠タリ。持氏セシ方ナク。憲實ニ和  
 睦ヲ乞ケレバ。憲實ガ家老長尾芳傳來テ。持氏ヲ  
 伴テ鎌倉へ赴テ。永安寺へ入テ。持氏剃髮ス。芳傳  
 フレテ。上杉憲直。一色直兼ヲ攻殺シ。此二人ハ憲  
 實ヲ護スル張本ナリ。其外憲實ニコハロヨカラサル

輩皆殺サル。持氏ヲバ。上杉持朝千葉胤直大石  
 憲儀等ヲシテ警固セシメ。使ヲ京都へ遣シテ。持氏  
 死罪一等ヲ宥メント請フ。  
 十一年二月。持氏叛逆ノ罪赦免ナリ。カタキ旨。義  
 教ヨリ憲實ニ命セラレユ。上杉持朝千葉胤直。永  
 安寺へ發向。持氏自害。年四十二。長春院ト号ス。  
 其叔父滿貞モ同ク自害。近習者皆討死ス。義久  
 ハ報國寺ニテ自害ス。基氏觀應ノ比ヨリ。東國ヲ領  
 セシヨリ。持氏マテ四代ノ間。九十年ニ及ヘリ。関東皆  
 憲實ニナヒキケレバ。推テ鎌倉ノ管領ト称ス。然レ  
 氏憲實君ヲ弑スルノ罪免レガタシト思テ。剃髮シ  
 テ長棟ト号ス。其弟兵庫頭清方ヲ。越後ヨリ鎌倉へ



呼寄テ。管領ヲ讓ル。六月憲實長壽院ニ赴テ。持氏影前ニテ自害ス。家人其刀ヲ奪ニヨリテ未死。療養シテ愈ヌ。十一月憲實遂ニ山内ヲ出テ藤沢ノ道場ヘ入テ。其ヨリ伊豆ノ國清寺ニ開居。十二年春持氏ガ二男春主。二男安王ト云ルアリ。持氏自害ノ時密ニ下野國日光山ヘ逃隱ケルヲ。小笠原政康等山ヘ入テ尋ケレバ。二人トモ二日光ヲ逃出テ。結城中務大輔氏朝ヲ憑ケレバ。氏朝許容シ。其子七郎光久ヲ遣テ春王安王ヲ城ヘ邀入テ。持氏舊好ノ者ヲカタラヒケレバ。來アツミル者多シ。又古河城ニモ兵ヲ籠置テ守レム。此事京都ヘ聞ケレバ。義教御教書ヲ憲實ニ賜テ。結城ヲ攻

シム。憲實辭退ス。清方山内ノ名代トシテ。扇谷ノ上杉修理大夫持朝ト。鎌倉ヲ出テ結城ヘ發向ス。京都ヨリ上杉中務少輔持房旗ヲ賜テ下向ス。憲實モ義教ノ命ヲモキニヨリ。伊豆ヨリ下野國小山ニテ出陣ス。清方持朝關東勢ヲ率ヒ持房京勢ヲ率テ。七月ヨリ結城カ城ヲ圍テ合戦ス。俗ニ是ヲ結城戰場ト云。十月近衛左府房嗣子教基元服。義教加冠シテ諱ノ字ヲ授ラル。嘉吉元年二月。畠山尾張守持國從三位ニ叙ス。管領公三家共四位ヲ以テ先途トス。持國獨ニ三品ニ昇進ス。斯波義重從三位ニ叙スル由系圖ニアリト云。氏公卿補任ニハ三ヘス。三月義教八幡參詣



四月十六日。上牧清方等諸軍ヲ進メ。結城ガ  
城ヲ攻火ヲ放テ燒ケレバ城遂ニ攻落サル古河城  
モ没落ス。結城氏朝父子討死シ。殺サル者一萬人  
ニ及ベリ。春王安王ハ女ノ姿ニテ。輿ニノセ城ヲ出テ  
ケルヲ。長尾因幡守コレヲ生捕ルスナハチ因幡守ヲ  
警固トシテ上洛セシム氏朝以下張本ノ頸二十九  
京へ送り遣ス。五月春王安王。美濃。垂井ニ到ル  
時。京都ヨリ佐々木基。檢使トシテ下向シ。因幡守  
ニ命ジテ。一人共ニ害セシム春王時二十三歳。安王  
八十一歳ナリ。安王ガ弟永壽王。ヒソカニ逃テ。信乃  
へ赴キ。大井持光ト云モノヲ憑テ。隠レ居ル。結城氏  
朝ガ末子成朝モ。常陸へ逃行。憲實ハ又鎌倉ヲ

立退テ。諸國へ行脚シ。後ニハ長門周防ノ邊ニ徘徊  
スト云傳フ。六月義教。赤松滿祐入道性具カ所  
領備前播磨美作ヲ分テ。其一族赤松伊豆守貞  
村ニ授ントス。滿祐カ子彦次郎教康コレヲ知テ。滿  
祐ニ語ル。滿祐恨ヲ含ム。今月廿四日。義教滿祐ガ  
宅へ渡御。猿樂ヲ見物。酒宴ヲ設ク。此時滿祐カ  
一族左馬助ト教康ト相謀リ。猿樂酒宴ノ最中ニ。  
厩ノ馬ヲ放テ。其サワキノ一キレニ門ヲ閉テ。教康  
ト左馬助ト進テ。義教ノ前へ到テ。左右ノ手ヲ取。  
義教驚處ヲ。赤松カ家人安積ウレロヨリ御頸ヲ  
賜ル。座中大ニ騷動ス。大内介持世。垣ヲ逾テ逃  
出。滿祐教康ハ。義教ノ頸ヲ持テ。一族ヲ引ツレ。播



州へ下向ス。義教時二歳四十八。太政大臣ヲ贈  
テル。普廣院ト号ス。善山ト称ス。

正長元年ヨリ今年ニテ。治世十四年。管領細川右  
京大夫持之。畠山左衛門督持國。大内介持世等  
以下相談シ。義教ノ子義勝ヲモリタテ主君トス。時  
ニ僅ニ八歳ナリ。細川讚岐守持常。赤松伊豆守貞  
村。武田大膳大夫信賢ヲ。大手ノ大將トシ。山名  
右衛門督持豊。同修理大夫教清。同相模守教之  
ヲ。搦手ノ大將トシ。播磨ニ發向シ。滿祐父子ヲ誅  
罰セシム。持常滿祐ト中ヨカリシユヘ進攻ス。八  
月。綸旨ヲ播磨ノ寄手ニ賜テ。滿祐ヲ誅セシム。  
同月。義勝從五位下ニ叙ス。九月。山名持豊教

清教之。播州ヲ攻破テ。滿祐自害ス。年六十一。安  
積以下家人多ク死。教康ハ伊勢國司ヲ擡ニ落ケルヲ。  
國司同心セガルユヘ。教康自害年十九。左馬助ハ境紫へ  
逃シ行朝鮮へ渡ルトナシ。滿祐カ首ヲハ。獄門ニカケ。播磨  
ヲ山名持豊ニ賜リ。美作ヲ教清ニ賜リ。備前ヲ教之ニ  
賜ス。持豊剃髮シテ宗全ト號ス。大宰少貳嘉頼。滿祐追  
討ノ催促ニ應ゼス。大内介持世ニ仰テ攻シム。嘉頼戰敗  
テ對馬へ赴ク。大内遂ニ少貳ガ領地ヲ取リ。明德ノ乱ニ  
山名氏清討シ。其後泉塚ノ戰ニ大内。義弘討レシヨリ。兩  
家少衰シカゴレヨリ。山名大内又大ナリ。十一月。西園  
寺公名内府ヲ辭ス。花山院。大納言持忠内府ニ任ス。  
二年八月。管領細川右京大夫持之。入道常喜卒。年四十二。



畠山左衛門督持國入道徳本管領ニ任ス 十月伊勢國司北畠神人上確執ニヨリテ管領徳本ヨリ飯尾貞元布施貞基松田氏秀ヲ遣テ和辭セシム伊勢ノ北畠ハ元來親房ガ子顯能カ末ナレハ南朝ノ方ナリシガ此時ステニ武家ニ從ヘリ 同月多武峯大織冠像破裂ニヨリテ二条関白持基ヨリ告文ヲ納ラル古ヨリ國家變アル時ハ此廟鳴動レ遺像破裂スト云傳フ 同月主上御不例諸社ヘ奉幣 十一月七日源義勝室町館ニテ元服二条関白持基ヲ招テ加冠セシム理髮ハ三條中將公綱ナリ月卿九人着座雲客數輩勤役勅使右中辨俊秀來テ冠直衣ヲ賜ル征夷大將軍ニ任シ正五位下ニ叙レ左中將ヲ兼テ爾翌日百官往テ賀ス

二年正月義勝從四位下ニ叙ス 五月朝鮮使者來朝入管領畠山徳本彼ハ貢職ニ事寄テ商賈ノタメニ來ルルヘレ將軍幼稚ナレハ諸國ノ費無益ナリナテ兵庫ヨリ追返入普廣院吊禮ニ來朝スト申ニヨリテ京ヘ入シメ斯波千代徳ヲシテ雜用ヲ下行セシム 六月朝鮮人室町殿ヘ參テ義勝ニ謁ス 七月廿一日征夷大將軍左中將源義勝早世僅十歲此人幼少ナレドモ馬ニ乗コトヲ好シカアヤマリテ落馬セラルト云傳フ治世三年慶雲院ト號ス左大臣從一位ヲ贈ラル畠山徳本等義勝ノ弟義成ヲ立テ主君トス時ニ八歳ナリ 九月二十二日ノ夜凶族内裏ニ乱入一手ハ清涼殿ニホリ一手ハ局町ヨリ攻入テ火ヲ放ツ長刀ヲ持タル者玉体ヲカサントシケルカ日



クレテタヲレケレハ。主上ハ幸ニスカレタニフテ。近衛殿房  
へ行幸。二種神器ハ凶族盜取レヲ。内侍所ヲハ。東門  
ノ番佐々水黒田取出レ奉ル。寶劍ハ清水寺ノ邊ニ捨置  
レヲ。心月坊ト云モノ拾トリテ奉ル。神玺ハ奪取レヌ。凶族等  
ハ叡山ニ上テ。南帝ノ官方壽寺ノ僧ナリレヲ取立ントテ。其  
赴ヲ謀送ス。日野一位有光入道同意ニヨリテ。其子右大  
弁宰相資親ト共ニ害セラル。武士等叡山ニ登リ。衆徒相共  
ニ凶族ヲ攻ケレハ。彼宮ヲ始皆討レヌ。同比播州ノ浪人等  
赤松三郎ヲ取立テ。謀叛メ誅セラレヌ  
文安元年正月。義成初テ。畠山徳本カ亭へ渡御。路次諸  
大名過固。二月。洛中ニ大豆小豆虚空ヨリ降隕。四月。  
西京住人ト。東京ノ住人ト。酒麴賣買ノ事ヲ訶論シ。西京

ニケレハ。憤テ北野ノ社へ籠ル。徳本時ノ侍所佐々木京  
極持清ト相議シ。兵士ヲ遣シテ捕レシ。惡黨等放火社頭  
并西京悉焼亡。八月。南朝ノ殘黨等。南帝ノ宮ヲ取立テ。  
吉野奥紀伊國ノ邊ニ蜂起ス。去年九月。奪取レ神玺。此  
所ニアリケルトナシ

二年十一月。系関白持基薨年五十八。後福照院ト号ス。  
近衛左府房嗣ト。一條前攝政兼良ト。執柄ヲ爭テ。畠山  
徳本へ双方ヨリ相議セラレ。然トモ勅許ニヨリテ。房嗣関  
白トナル。大納言藤原時房内府ニ任ス。細川勝元管領  
ニ任ス。歳十六。此比。關東ノ武士等。京都へ訶望シテ。故持  
氏カ末子永壽王信濃國ニテリシヲ鎌倉へ迎テ御所ト称  
シ。元服シテ成氏ト号ス。上以憲實カ子龍若ヲ管領ト称シ。



元服シ憲忠ト號シ山内ニ居シム。扇谷ノ上牧持朝カ娘ヲ  
憲忠ニ嫁シ。一族家人保護シ。關東暫無事ナリ。

三年正月一條兼良太政大臣ニ任シ。關白左大臣房嗣ノ  
上ニ位ス。内大臣時房辞退洞院。大納言藤原實熙内府  
ニ任ス。兼良時ニ四十六歳博學廣才ノ譽アリ。元着ス書  
多シ。神道歌道佛學ニモ兼通セリ。實熙モ有職ノ聞ヘアリ。

四月。關白房嗣左府ヲ辞ス。鷹司右府房平左ニ轉シ。二  
條大納言持通右府ニ任ス。同月。義成讀書始乘馬始  
等アリ。十一月。義成名字定宸筆ヲ添ラシ。一條右府  
持通傳進セラレ。同月。義成從五位下ニ叙セラレ。今年  
相國寺長老周鳳瑞溪鹿苑院ニ住持。僧録司トナル。義  
滿義持ノ代ヨリ。鹿苑院ニ住持スル者。僧録ニ任セラレ。薩

宗軒ヲ其副トシテ。五山十刹出世ノ事ヲ取次シメ。武家  
ヨリ公帖ヲ賜ル。

四年二月。義成從五位上ニ叙シ。侍從ニ任ス。四月。義  
成犬追物興行。五月。富樫次郎其叔父安高ト加賀國  
守護職ヲ論ス。管領細川勝元。安高ヲ扶ク。畠山徳本  
公次郎ヲ扶ク。故ニ半國ツ。分テ領セシム。六月。一條兼  
良執柄ヲ望シ。義成ノ母大方殿ニ就テ。訴ラシ。武家執業  
故ニ近衛房嗣當職停ラシ。兼良關白トナル。十一月。義  
成ヲ始アリ。同月。畠山カ家人。紀伊國南方ノ敵ヲ破テ。  
彼大將圓滿院還俗ノ官ヲ討取テ。其頸ヲ京ヘ獻ス。同  
月。伏見殿入道親王道欽ニ。太上天皇ノ尊号ヲ奉ラル。主  
上ノ實父ナルニ。年来尊号ヲ望申サル。主上ノ同母弟



貞常親王<sup>タカノ</sup>伏見殿ヲ相續<sup>ツグ</sup>シテ今ニ至<sup>キ</sup>ニテ代々親王宣下  
セラル

五年二月太上天皇へ行幸細川勝元カ家人<sup>サト</sup>過<sup>カ</sup>國 八  
月赤松左馬助朝鮮ヨリ歸ル其家ヲ再興<sup>サカサマ</sup>セシトス事了  
ラハレテ誅<sup>ツク</sup>セラル其首<sup>カビ</sup>京へ到来 十二月義成左馬頭  
ニ任ス

寶徳元年四月十六日義成元服<sup>十五</sup> 加冠<sup>カ冠</sup>公管領細川  
武藏守勝元勤之理髮<sup>シム</sup>細川民部少輔教春<sup>ヤス</sup>代之其餘  
役者皆細川一族ナリ勅使傳奏中山宰相親通御太  
刀ヲ賜ル武家ヨリ砂金御劔御馬ヲ獻セラル親通ニモ  
御劔御馬ヲ賜ル其日ノ椀飯<sup>ワンイ</sup>公勝元沙汰翌日ノ椀飯<sup>ワンイ</sup>公  
畠山義就沙汰ス<sup>義就ハ徳本カ子</sup> 十九日公家諸大名等來賀ス

関白兼良ハカリ當職ナルユヘ往ス二十九日義成征夷  
大將軍ニ任ス外記官務宣旨ヲ持參伊勢守貞親奉テ  
椽物ヲ授ク今日吉書判始アリ勝元行<sup>ウ</sup>之 八月義  
成參議ニ任ス左中將ヲ兼テ從四位下ニ叙メ衣冠車ニ  
乘テ參内勝元供奉 十一月畠山徳本管領ニ再任  
二年正月義成從二位ニ叙ス 二月權大納言ニ任ス  
四月関白兼良相國ヲ辭ス 五月洞院實頼内府ヲ辭  
ス西三條前大納言公保内府ニ任ス 六月公保辭退ス  
三条大納言實量内府ニ任ス 同月義成從二位ニ叙ス  
七月義成參内公卿扈從<sup>コト</sup>雲客勤役 八月秋奠直  
講中原師益<sup>ヒコ</sup>義成ヨリ御教書ヲ賜テ初獻<sup>ハツコ</sup>ヲ役ス此  
比ニテモ春秋二仲ノ恒式<sup>コト</sup>怠ラス



三年七月琉球人来ル。八月。義成書簡ヲ大明へ遺ス。九月。管領畠山德本ガ家人侍所京極持清カ從者ヲ殺ス。持清怒テ畠山下關ニトス。細川右馬頭成賢コレヲ制止シテ畠山ガ下手人ヲ出シ。持清ヲシテ斬シム。享徳元年十月久我前内府源清通太政大臣ニ任ス。三條實量内府ヲ辞ス。一條大納言教房内府ニ任ス。細川右京大夫勝元管領ニ再任ス。

二年二月。義成從一位ニ叙ス。四月。一條兼良関白ヲ辞ス。一條右府持通関白トシ。六月。義成名ヲ義政ト改ム。同月。兼良准二宮食邑隨身兵仗等。忠仁公ノ例ノコトシ。九月。久我相國源清通薨ス。年六十一。十二月。將軍義政源氏長者トナリ。辨學淳和兩院ノ別當ト

十九

三年四月。畠山伊豫守義就ト。畠山尾張守政長ト。家督ヲ争フ。初。德本子ナキニヨリテ。其弟持富カ子政長ヲ養テ家督トス。其後實子義就生レケレハ。政長ヲシリゾケ。義就ヲ家督トシ。政長ヲ追出。誅罰ノ御教書ヲ申請然トモ。細川勝元山名宗全等。政長ヲ負ス。故ニ政長ヒソカニ勝元ガ家ニカクレラル。其從者ハ宗全ガ所ニカクレラク。七月。一條持通関白并右府ヲ辞ス。鷹司左府房平関白ニ任シ。洞院前内府實親右府ニ任ス。八月。山名宗全等。畠山ガ家人。并浪人等ヲ召アツムルニヨリテ。洛中物念。故ニ山名相模守教之。細川兵部少輔勝久。武田某等。室町殿ヲ警固ス。尤一日ノ夜。宗全ガハカラヒニテ。浪人



等ヲシテ。俄ニ德本ガ宅ヲ攻テ火ヲ放ツ。德本義就逃  
出。義就ハ河内へ赴ク。德本ハ建仁寺西来院へ蟄居シ。  
心ナラス。政長ヲ家督トス。勝元コレヲ取立テ。義政ニ謁セ  
シムス。ナハチ誅罰ノ御教書ヲ召カヘサル。政長ヲシテ。德本  
カ家ヲ續シム。然トモ義政此騒動宗全ガ爲ナリコトヲ  
怒テ。軍勢ヲ召アツメ。宗全ヲ誅セントス。勝元サレバ申  
シ宿メテ。宗全ヲ但馬國へ蟄居セシム。其子教豊公在京  
奉公セシム。勝元モ其家人儀谷某。今度ノ張本ナリト  
テ。誅戮シ。義政ニ謝メ。世上無爲ナリ。十二月。関東ニ  
テ。足利成氏。蜜ニ結城氏朝ガ子成朝ト相謀テ。上杉  
右京亮憲忠ヲ殺メ。持氏氏朝ガ仇ヲ報コト称ス。上杉  
カ家臣長尾等。越後ノ上杉房顯ヲ取立テ。上野ニ住

鎌倉ヲ攻テ成氏ト相戦フ。成氏遂ニ敗北シテ。下野ノ古  
河ニ移住ス。是ヲ古河ノ御所ト云。房顯鎌倉ニ入テ。関  
東ヲ管領ス。コレヨリ古河方相分テ。東國大乱  
康正元年五月。細川讚岐守成之。赤松ガ家ノ絶タルヲハ  
レシテ。山名宗全ガ蟄居ヲヨキ折節ト思テ。赤松滿祐  
ガ姪彦五郎則尚赦免ノ事ヲ。義政ニ申請テ。則尚ヲ播  
磨ノ本領へ赴シム。播磨ハ宗全ガ賜ル國ナルユヘ。大ニ怒テ  
兵ヲ率テ赤松ヲ撃破ル。則尚討シヌ。宗全スナハチ入洛ス。  
其威肩ヲナラズル者ナシ。六月。鷹司房基。関白并左府  
ヲ辭ス。一條持通。関白ニ再任ス。西園寺前内府公名  
太政大臣ニ任ス。七月。畠山義就。河内ヨリ出テ。大和片  
岡ノ邊ヲ掠ム。義政コレヲ呼返シテ。政長ト和睦セシム。



八月洞院右府實熙左府二任ス。一條内府教房右府二任ス。近衛大納言教基内府二任ス。義政右大將ヲ兼マ。二年正月。義政馬寮御監トナル。三月。義政石清水参詣公卿殿上人勤役。八月。太上天皇道欽崩ス。年八十五。後崇光院ト號ス。今年。義政書簡ヲ朝鮮國王ニ贈ル。長祿元年二月。長得院義豐ニ左大臣從一位ヲ贈ラル。四月。洞院實熙左府ヲ辭シテ剃髮ス。東山ノ左府ト號ス。六月。一條右府教房左府ニ轉ス。二條前内府實量右府ニ任ス。八月。西園寺公名相國ヲ辭ス。九月。實量右府ヲ辭ス。近衛内府教基右府ニ任ス。正親町三條實雅内府ニ任ス。二年七月。二條關白持通太政大臣ニ任ス。實雅内府

ヲ辭ス。將軍源義政内大臣ニ任ス。歲二十四。八月。神坐南方ヨリ内裏へ返納。是ハ赤松ガ即從石見太即左衛門ト云モノ。浪人トナリテ。二條右府實量ニ仕テ。赤松ガ家ノ絶タルヲ歎ク。實量何トソ嘉吉ノ大逆ヲ贖ボトノ奉公アルヘキヤト云。石見若南方へ赴テ。其王ヲ弒テ。神坐ヲ取テ返納ハ如何アルヘキト云。實量奏聞シ。武家へ申ケレハ。許容セラル。石見喜テ。赤松ガ一族間島ト。其即從中村トテ。南方へ奉公セシメ。近クナレテ。隙ヲ伺テ。南帝ヲ弒シ。神坐ヲ奪取テ販ル。吉野ノ鄉民追懸ケレハ。中村ハ討死ス。間嶋神坐ヲ捧テ歸京。内裏へ進セラル。南朝ハ此時悉亡ケリ。此ニヨリテ。赤松滿祐ガ弟。義雅ガ孫。次郎政則トテ。五歳ナルヲ召テ。加賀半國ヲ賜テ。赤松氏



ヲ興ス。コレモ細川家ノ取成ナルユ。山名宗全ハ喜ス。ヒソニ  
石見ヲ辻切ニス。十二月二條持通、關白ヲ辭ス。一條教  
房、關白ニ任ス。教房ハ兼良ノ子ナリ。

三年二月、義政新館ヲ營ス。花亭ト號ス。十二月、關  
白、教房左府ヲ辭ス。二條前右府實量左府ニ任ス。

寛正元年六月、前關白持通相國ヲ辭ス。七月、實量左  
府ヲ辭ス。八月、義政内府ヨリ左大臣ニ任ス。右大將  
元ノ如シ。徳大寺大納言公有内府ニ任ス。九月、畠山  
右衛門佐義就又義政ノ命ニ違テ河内へ赴ク。若江城  
ニヨモル。畠山尾張守政長ニ仰テ、義就ヲ攻テ、若江城ヲ  
破ル。義就獄山金胎寺ニ城ヲ構テ、政長ト合戦ヤリス。

同年朝鮮人來朝

二年七月、徳大寺公有内府ヲ辭ス。久我大納言源通  
尚内府ニ任ス。八月、義政大將ヲ辭ス。十月、義政ノ  
弟左兵衛督政知、關東下向。是ハ上校房頭ト古河成  
氏ト連年合戦。東國レツミラサルユ。關東ヨリ政知ヲ  
請待シ。主君トセント望ニヨリテナリ。然トモ政知鎌倉へハ  
入ス。伊豆ノ北條ニ住セラル。山内扇谷兩上校皆政知ヲ  
ウヤマフテ、堀越ノ御所ト號ス。然トモ東國ハ皆上校カ  
下知ニ屬テ、政知サミテノ威モナカリケリ。十二月、近  
衛前關白房嗣太政大臣ニ任ス。年五十九。

三年四月、畠山義就善戦テ、政長利ヲ失ニヨリテ、細川  
讚岐守成之、山名禪正是、豊井武田、佐々木伊勢國  
司北畠教具等、政長カ加勢トシテ遣サル。義就戦敗シテ



金胎寺城没落 八月近衛右府教基薨ス。年四十  
德大寺前内府公有右府ニ任ス

四年四月。一条教房関白ヲ辭ス。一条持通又関白ニ  
任ス。教房當職ノ時。一座ノ宣旨ヲ蒙ス。故ニ上表ノ後  
三條前左府實量ガ下ニアルベシト勅詔アリト云トモ。教  
房ガ父兼良執奏シテ。教房ヲ實量カ上ニ座セシム。兼  
良時年六十一。教房ステニ関白タル故ニ兼良ヲ一条ノ  
大関ト號スル其身関白ヲ歷テ。其子モ又関白トナルニテ  
存生セル人ヲハ大関ト云 同月畠山義就嶽山ノ城  
ヲ落テ。高野山ヘ入。政長ツ。イテ攻。義就吉野山ヘ逃カ  
クル 十二月。政長歸洛。初山名宗全ハ。細川勝元ト共  
ニ政長ヲ取立テ。義就ヲシリゾクト云トモ。細川ガ赤松

カ家ヲ立ルコトヲ憤リ。今度數年ノ戦ニ。義就ガ此馬  
ナルヲ宗全聞テ。已カ助トセントヲモヒ。密ニ交ヲ通セリ。勝  
元ハ宗全カ塔ニテレタシキウヘ。勝元子ナキユヘ。宗全カ  
子ヲ養ケルガ。勝元實子出來シケレハ。其養子ヲ僧トス。  
コレヨリ細川山名中アレク。權ヲ爭フキガレアリ

五年正月。源通尚内府ヲ辭ス 四月。觀世音阿弥并子  
息又三郎。紅河原ニテ。勸進猿樂アリ。義政棧敷ヲ構テ  
三月。日見物。細川勝元。畠山政長。斯波義廉カハル。經  
營ス。歸路ニハ。二管領ノ家ヘ渡御アリテ。猿樂ヲ召テ。纏  
頭セシム 七月。九條大納言。政忠内府ニ任ス 同月。主  
上。脆疑シテ。位ヲ東宮成仁ニ讓ル

年號 永享十二年 嘉吉三年 文安五年 寶徳二



年 享德三年 康正二年 長祿三年 寛正五年  
合三十六年

百四代

後土御門院 護成仁後花園院ノ子也母ハ嘉樂門院  
大炊御門内大臣藤原信宗娘ナリ。寛正五年七月受  
禪時三十三歳関白ハ二条太政大臣持通ナリ。後花  
園ヲ院ノ御所ト称ス。將軍源義政院ノ執事トナル。八  
月畠山政長管領ニ任ス。九月徳大寺ハ公有右府ヲ辞  
ス。十一月前内府源通尚右府ニ任ス。同月義政准  
三宮 義政既ニ治世歳久今年三十。一々男子アズ。  
故ニ其弟爭土寺門跡義尋ヲ還俗セシメ各ヲ義視ト  
改々從五位下左馬頭ニ任ス。今出川殿ト号シ天下ヲ讓テ

ニト約シ。細川勝元ヲ義視ノ執事トス。

六年正月義視從四位下ニ叙ス。二月判始弓馬始アリ。三月義  
政東山花見細川勝元經營。八月義政細川勝元ガ枝  
敷ニテ大追物ヲ見ル。九月九条殿政忠内府ヲ辞ス。今  
出川大納言藤原教季内府ニ任ス。十一月義視元服。  
參議ニ任シ左中將ヲ兼。同月義政御臺取藤原富子  
男子ヲ生リ。密ニ山名宗全ヲ頼ミ。義視家督トシ。此子  
ハ僧トナルヘキヤ願ハモリタテラレヨトアリケル。宗全元  
ヨリ勝元ト不和ナリ。故義視代ニテラハ勝元イヨク強カル  
ベシト思ヒテ若君ヲモリタテ申サント約ス。十二月義視  
大納言ニ任シ。從三位ニ叙ス。同月御即位ノ儀行ハル。  
文正元年正月義視從二位ニ叙ス。同月源通尚右府ヲ



辞ス。一條大納言政嗣右府ニ任ス。二月藤原教季内府  
ヲ辞ス。西園寺大納言實遠内府ニ任ス。四月斯波  
義廉上斯波義敏上家督ヲ爭此ヨリ前斯波ノ宗領  
千代徳早世シテ子ナシ。義敏ヲ家督トセシトス。家人甲  
斐朝倉織田同心セス。故ニ伊勢守貞親ガトリツギニテ。  
澁川義廉ヲ斯波ノ家督トス。義敏浪人トナリテ周防國  
ニアリ。然ルニ義敏カ妹貞親カ妾トナリ。義敏カ子蔭涼  
軒葉西堂カ弟子タリ。故ニ貞親葉西堂相談ニテ。義政  
へ申。義敏ヲ召歸斯波ノ家ツツガシム。義廉從ハス。義廉  
山名宗全ガ婿ナリ。故ニ宗全大ニ怒テ兵ヲ聚ム。義廉  
ヲ見顧ス。ト風聞シケレハ。義政怒テ。義視ト不和。義視  
恐テ細川勝元カ宅へツモムク。貞親葉西堂并ニ義敏京  
ヲ出テ逃走ル。日野大納言勝光ト一色範直トハカラヒテ。

義政義視和睦宗全御臺所ヲ頼ニ。義政へ申シ。畠山義  
就ヲ上洛セシメ。巴ガ助トス。畠山政長怒テ。弥細川勝元  
ト和睦シ。  
應仁元年正月。山名宗全。畠山義就。幕府ノ四門ヲ警  
固シ。義視ヲモ室町殿へ招寄。主上上皇ヲモ室町殿へ行  
幸御幸ナシ奉リ。細川勝元。畠山政長ヲ殺シト申ス。許容  
ナシ。義視使ヲ遣シ。勝元ヲス。メテ政長ト交ヲ絶シ。勝  
元從フ。是ニヨリテ。政長追討ノ院宣ヲ給リ。義就大將ニ  
テ御靈森ニテ。政長ト合戰。政長逃亡ス。宗全義就威  
ヲ洛中ニ振フ。同月。西園寺ノ實遠内府ヲ辞ス。日野  
勝光内府ニ任ス。二月。斯波義廉管領ニ任ス。勝元ハ威



衰テ籠居ケルガ政長ヲ救サルコトヲ無念ニ思。宗全義  
就カ威ヲ振テヲ惡テ。遂ニ合戦ノ用意ヲナス。細川一  
族。淡路。讚岐。阿波。土佐。和泉。攝津。丹波。二河。備中ノ勢  
畠山。政長。紀伊。河内。越中ノ勢。斯波。義敏。兵五百人。京  
極。持清。近江。飛彈。出雲。隱岐ノ勢。赤松。政則。兵五百人。  
武田。國信。安藝。若狹ノ勢。畠山。政則。兵五百人。其外吉良。義  
真。仁木。成長等ノ大小名。勝元ニ從者十六万人ト云リ。  
山名ノ一族。但馬。播磨。備後。因幡。伯耆。美作。石見ノ勢。  
斯波。義廉。遠江。尾張。越前ノ勢。畠山。義就。大和。河内。熊  
野。勢。同。義統。能登ノ勢。一色。義直。丹波。伊勢等ノ勢。土  
岐。成頼。美濃。勢。六角。高頼。近江ノ内ノ勢。大内。政弘。周  
防。長門。豊前。筑前。并。安藝。石見ノ内ノ勢。河野。一族。伊

豫ノ勢。其外吉良。義藤。仁木。教將等以下。宗全ニ從者  
十一万人ト号ス。勝元ガ陣ハ東ニアリ。宗全ガ陣ハ西ニ  
アリ。洛中相分テ相挑。義直。直ニ勝元。宗全ガ許ヘ到テ。  
アツタフトイヘトモ同心セズ。五月。一條持通。関白ヲ辞ス。  
一條。大閤兼良。又。関白ニ任ス。同月。勝元。赤松。政則  
ヲシテ。播磨。備前ヘ赴シム。本國ナル故。程ナク。打平テ。兩  
國ノ兵ヲ催シテ。歸洛ス。宗全ガ方ヨリ。一色。義直。ヲシテ。  
義政ノ館ヲ守シム。勝元。大軍ヲ帥テ。義直ヲ伐敗リ。則  
幕府ヲ警固シ。義政ノ旌ヲ給テ。宗全ヲ討。六月ヨリ  
合戦始テ。毎日止ナシ。洛中。洛外ノ在家。寺社。多ク。燒亡  
八月。大内。介。政弘。大勢ヲ帥テ。上洛ス。宗全ガ方ヘ  
加ル。赤松。攝州ニテ。拒テ。合戦。赤松。敗軍。同月。勝元。主



上上皇ヲ。室町ノ花御所ヘ行幸御幸ナラシム。此ハ義政  
義視若宗全ガ方ヘナリタマフナラハ。勝元ハ主上上皇ヲ  
巴ガ方ニ盟ヒヒラセテ。戰ントノタクニナリ。九月。義視  
密ニ京ヲ出テ。伊勢國ヘ赴キ。國司北島中納言源教  
具ガ館ニアリ。同月。義政左大臣ヲ辞ス。

二年正月。九条政嗣左府ニ任ス。九条大納言政基右府  
ニ任ス。正月ヨリ二月ニ至テ。勝元宗全。洛中合戰。其  
徒黨ノ者共國々ニテモ相戰。四月。勝元使ヲ遣シテ  
義視ヲ迎フ。十月。義視京着。此時勝元。義視ヲ將軍  
トセントハカルヨシ風聞シテ。義政疑アルヨシ。勝元聞テ。其  
疑ヲ散センタメ。義視ヲシテ。叡山ヘ上シム。宗全人ヲシ  
テ。義視ヲ己カ陣ヘ迎テ。主君トス。此ヨリ。義政ハ勝元

カ方ナリ。義視ハ宗全ガ方ニテ兄弟國ヲ爭ニ似タリ

十一月。日野勝光内府ヲ辞ス。鷹司大納言政平内府ニ  
任ス。

文明元年正月。義政ノ子義尚五歳ニテ。勝元以下。諸大  
名ノ礼ヲ受ラル。伊勢守貞宗コレヲ扶持ス。宗全方ノ大  
名等ハ。義視ニ謁ス。五月。冬賀。豐後守高忠。近江ヨリ勢ヲ  
催シテ。上洛。勝元ニクハル所ニ。又近江ニテ。六角龜壽起ト  
聞テ。高忠敗陣ス。高忠ハ京極ガ族ナリ。京都ノ所司代  
トナリテ。名アル者ナリ。又筑紫ニテ。大内ガ留守。一尾加  
賀守ト云者。謀叛シテ。勝元ニ應ズ。其隙ヲ子ラヒ。少貳嘉  
頼ガ子。教頼對馬ヨリ打出テ。筑前ノ本領ヲ取返ス。  
九州モ大ニ乱ル。



二年七月。一條閑白兼良辞退ス。八月。一條左府政嗣閑白トナル。兼良時ニ六十九歳代ト相傳ノ書籍皆洛中兵乱ニ或ハ燒失シ或ハ濫妨セラレテ兼良ハ奈良へ蟄居ス。其子前閑白教房ハ兵庫へ下リ。其孫房家ハ土佐へ下ル。土佐。一條トハ此末ナリ。其外ノ百官モ皆散々ニ落行ケリ。十二月後花園上皇空町殿ニテ崩ス。歳五十一。

二年正月上皇ヲ悲田寺ニ葬ル。義政歩行ニテ從兵乱ノ中ナルニヨリテ。管領勝元侍來赤松政則并取司代浦上則宗警固嚴重ナリ。五月。義政越前國ヲ朝倉孝景ニ給ル。越前ハ斯波ノ武衛代々ノ領國ナリ。然ルヲ其家老甲斐某兵乱ノキレニ武衛ヲ殺シテ國ヲ

奪フ。朝倉又甲斐ヲ殺シテ遂ニ越前ノ主トナル。其後武衛ノ子孫浪人シテ関東へ赴ク。尾張モ武衛ノ國ナリ。其家老織田夺取レリ。同年関東ニ上牧顯定古河成氏ト合戦シ古河ノ城落テ成氏千葉へ逃走ル。天下盡戰國トナル。

四年。勝元宗全洛中ノ合戦猶イマタ止ス。能登畠山義統ハ宗全カ方ナリシカ。義政ノ旨ニ從テ勝元へ降参ス。是ニヨリテ北國路開テ勝元カ陣へ兵糧多聚ル。故ニ宗全方ノ者多降参ス。

五年三月十九日山名右衛門督持豊入道宗全卒ス。歳七十。五月十一日細川右京大夫勝元卒ス。歳四十四。龍安寺ト号ス。應仁元年ヨリ此ニテ七年合戦勝



負決<sup>カ</sup>せ。兩方ノ大將病死ス。其徒黨猶洛中ニ對陣ス。朝廷モコレヨリ<sup>イニラフ</sup>弥<sup>イニラフ</sup>衰<sup>イニラフ</sup>テ。年中ノ行事モ皆スタレヌ。武將ノ威モカロクナリテ。其下知ラキカス。六月。一条大閣兼良落飾<sup>ラクシヨク</sup>。歳七十二。後成恩寺ト号シ。法名ヲ覺惠ト云。十二月。義尚元服。義政加冠タリ。柳原宰相廣光理髮<sup>リ</sup>タリ。正五位下ニ叙シ。左中將ニ任シ。同日。義政ノ讓ヲ受テ。征夷大將軍ニ任シ。参内時。九歳。畠山政長管領ニ任ス。七ヶ日ニシテ止ラレテ。畠山義統管領ニ任ス。

六年。義尚從四位下ニ任ス。九月。義政書簡ヲ朝鮮へ遣シ。大明ノ勘合ノ印判ヲ求ム。

七年。正月。義尚美作權守ヲ兼。二月。一条關白政

嗣左府ヲ辞ス。三月。九条政基左府ニ轉シ。鷹司政平右府ニ任ス。近衛大納言政家内府ニ任。四月。義尚正四位下ニ叙ス。八月。義政遣唐船ヲ大明ニ遣ス。此比大明へノ使者ハ皆禪僧ナリ。九月。義尚参議ニ任ス。中將元ノ如シ。十月。義尚讀書始。此人ハ學問ヲ好シ。和歌ヲ馬ニモ心カケラル。

八年。正月。義尚從二位ニ叙ス。五月。一条政嗣關白ヲ辞ス。九条政基關白ニ任シテ。左府ヲ辞ス。日野前内府勝光左府ニ任ス。勝光ハ義尚ノ母富子ノ兄ナリ。故ニ清花ナラスシテ昇進セリ。六月。勝光左府ヲ辞ス。八月。鷹司政平左府ニ任シ。近衛政家右府ニ轉シ。三条大納言藤原公敦内府ニ任ス。



九年正月。義尚正二位ニ叙ス。十一月。山名宗全カ徒黨大名等。皆京ヲ去テ。國々ヘ下向ス。義視ハ美濃ヘ赴ク。洛中ハ靜謐ス。畠山政長管領トナル。應仁ヨリ是ニテ。十一年ニ及ヘリ。此ヨリ諸大名皆其分國ヲ押領シテ。武將ノ威衰ヌ。

十年。關東ニテ。足利成氏ト上。枚頭定ト和睦ス。成氏古河ヘ歸ル。頭定ハ山内ノ家ヲ續テ。上野平井城ヲ構テ。八箇國ヲ下知ス。此時扇谷ノ上。枚ヲハ修理大夫定正ト云。其家老ヲ太田道真ト云。其子ヲ道灌ト云。武州ニ住セリ。太田父子カ謀ニテ。關東ノ武士。山内ヲ背テ。扇谷ニ從者多シ。此ヨリ兩上枚不和ニテ。合戦ニ及ヘリ。

十一年正月。義尚從二位ニ叙ス。二月。九条政基。關白ヲ辞ス。近衛右府。政家。關白トナル。三月。鷹司政平。左府ヲ辞ス。政家。左府トナル。三條内府。公敦。右府トナル。大炊御門。大納言。信量。内大臣トナル。十一月。義尚十五歳。判始評定。始此ヨリ。義政ニ代テ。政務ヲ沙汰ス。義政ハ東山ノ東。求堂ニ閑居シ。古器古畫ヲ弄ヒ。茶器ヲ聚テ。年月ヲ送ル。東山殿ト号ス。銀閣ヲ作テ。北山ノ金閣ニ准ス。

十二年二月。三條公敦。右府ヲ辞ス。今出川前内府。教季。右府ニ任ス。義尚大納言ニ任ス。七月。義尚ノ取望ニヨリテ。一条大閤兼良。樵談治。要ヲ換ス。十二年正月。今出川。教季。右府ヲ辞ス。西園寺實遠。



右府一任ス。四月一条大閤兼良薨ス。年八十。其着  
ス書世ニ傳ルモノアリ。今ニ至ニテ其博識ヲ稱ス。五  
月大炊御門信量内大臣ヲ辞ス。六月德大寺大納  
言實淳内府ニ任フ。七月久我前右府源通博本名通尚  
太政大臣ニ任ス。十二月教季左府ニ任ス。  
十四年十月久我相國通博薨ス。歳五十七。十二月  
教季左府ヲ辞ス。

十五年正月西園寺實遠左府ニ任シ。大炊御門信  
量右府ニ任ス。同月義尚館ニテ詩歌ノ會アリ。二  
月近衛政家関白ヲ辞ス。鷹司政平関白トナル。三  
月義尚從一位ニ叙ス。

十六年十一月義尚源氏長者將學淳和兩院別當

トナル

十七年三月鷹司関白政平太政大臣ニ任ス。德大寺  
實淳内府ヲ辞ス。中院大納言源通季内府ニ任ス。三  
日ヲテ辞退花山院大納言政長内府ニ任ス。四月  
政平相國ヲ辞ス。六月義政落飾喜山ト号ス。法名道  
植又道慶ト改ム。八月義尚右大將ヲ兼任ス。今年  
古河成氏和睦ヲ請義政義尚許容ス。

十八年正月義尚馬寮御監トナル。七月細川右京大  
夫政元管領ニ任ス。是ハ勝元ガ子ナリ。同月義尚大  
將拜賀奈内其儀式先例ヲ考テ嚴重ナリ。東山殿  
義政義政棧敷ヲ構テ見物。十二月花山院政長内府ヲ辞  
ス。一条大納言冬良内府ニ任ス。冬良ハ兼良ノ一男也。



今年關東ニテ。山内上牧顯定ガハカリヨトニテ。扇谷上牧  
定正其家老太田道灌ヲ殺ス。此ヨリ扇谷衰テ。顯定  
威ヲ關東ニ振ヘリ

長亨元年二月。鷹司政平関白ヲ辞ス。九条前内府政  
忠関白トナル。八月。大炊御門右府信量薨ス。歳四十六。  
西園寺實遠左府ヲ辞ス。徳大寺前内府實淳左府  
ニ任レ。花山院前内府政長右府ニ任ス。九月。佐々木  
六角高頼上洛セシ。義尚自軍勢ヲ帥テ。近江へ發向ス。  
十月。高頼逃テ。甲賀山ニ入。義尚鈎里ニ在陣ス。陣中  
ニテモ。孝経左傳等ノ講談ヲ聞。今年伊勢新九郎長  
氏京ヨリ駿河へ下向レ。今川カ許ニ任ス。長氏或氏茂トモ  
云トナシ

二年八月。一条内府冬。良関白トナル。九月。九条前関白  
政忠薨ス。歳五十。同月。近衛前関白政家太政大臣  
任ス。同月。義尚内大臣ニ任ス。義尚ヲ改テ。義熙ト号ス。  
延徳元年二月二十六日。征夷大將軍從一位内大臣  
源義熙。江小鈎里ノ陣中ニ薨ス。歳二十五。常德院ト号ス。  
太政大臣ヲ贈ル。文明五年ヨリ今年ニテ。在職十七年。  
父義政甚歎テ。其上継嗣ナキヲ愁テ。義相ト和睦ス。  
四月。義祝美濃ヨリ上洛。落飾。義祝カ子。義村ヲ。義政  
養テ。子トス。此ヨリ前。義村已ニ從五位下左馬頭タリ。  
七月。今出川大納言藤原公興内府ニ任ス。  
二年正月七日。前征夷大將軍從一位左大臣准三宮源  
義政薨ス。歳五十六。太政大臣ヲ贈ル。慈照院ト号ス。嘉



吉三年ヨリ今年ニテ。治世四十九年 二月花山院政  
長右府ヲ辞ス。近衛大納言尚通右大臣ニ任ス。四月  
近衛政家太政大臣ヲ辞ス。七月義村從四位下ニ叙シ。宰  
相中將ニ任シ。征夷大將軍ニ補ス。歳二十五

三年正月七日。入道大納言源義規薨ス。歳五十一。大  
智院ト号ス。太政大臣從一位ヲ贈ラル。二月公興内府  
ヲ辞ス。一条大納言尚基内大臣ニ任ス。四月慈照院  
ノ舍弟從二位左兵衛督源政知伊豆國ニテ卒ス。歳五  
十七。勝幢院ト号ス。政知カ子義通ハ伯父慈照院養  
子ノ契約アリト云リ

明應元年八月。義村軍ヲ帥テ。江州六角高頼ヲ攻テ。  
三井寺ニ陣ス。高頼甲賀山ニ隠ル。義村敗京

二年正月。關白冬良太政大臣ニ任ス。三月。義村河内ニ  
發向シ。畠山義豊ヲ討ツ。畠山政長相從。義豊ハ義就カ  
子ナリ。三月冬。良關白ヲ辞ス。近衛右府尚通關白々  
四月。義村正覺寺ニ陣ス。義豊正覺寺ヲ攻メ。細  
川政元。義豊ニ頼メ。加勢シテ。正覺寺ヲ攻破ル。畠山政  
長討死ス。其子尚順紀州ニ走ル。義村ヲハ政元捕テ。其家  
人物部紀伊守カ来ニ押籠テ。政元カ計ニテ。伊豆國ヨリ。  
義通ヲ迎テ。上洛セシメ。主君トス。義通從五位下ニ叙ス。  
同月。徳大寺實淳左府ヲ辞ス。花山院前右府政  
長左府ニ任ス。六月。義村密ニ逃出テ。越中國へ赴キ。其  
ヨリ又立坂周防國へ赴キ。大内介義興ヲ頼テ。年月ヲ  
送レリ



三年十一月義通正五位下ニ叙ス。左馬頭ニ任シ。名ヲ義  
高ト改ム。十二月義高征夷大將軍ニ任ス。歳十六  
同月伊勢新九郎駿河今川カ兵ヲ借テ伊豆ヨリ相模  
へ越テ。小田原ノ城ヲ取テ任居ス。新九郎剃髮シ自ラ北  
條早雲ト号ス。此ヨリ其威漸盛ナリ。其子ヲ氏綱ト云。  
父子共ニ武勇アリテ。遂ニ上校ト合戦シ。關東ヲ爭フ。  
五年二月赤松政則從三位ニ叙シ。四月二十五日卒ス。  
年四十一。南帝ヲ弑シ。神筆ヲ取シ功ニテ三品ニ叙スト。  
十一月花山院政長左府ヲ辞ス。十一月近衛  
関白尚通左府ニ轉シ。今出川前内府公興右府ニ任ス。  
六年四月尚通左府ヲ辞ス。公興左府ニ任ス。五月  
二条内府尚基内府ニ任ス。六月尚通関白ヲ辞ス。尚

基関白ニ任ス。久我大納言源豊通内大臣ニ任ス。七月  
一条冬良太政大臣ヲ辞ス。九月古河源成氏卒ス。年六  
十四。院上号ス。其子ヲ政氏ト云。關東ノ武士コレヲ  
御取ト称ス。氏名ハカリニテ威望ナシ。十月一条関白  
尚基薨ス。年九十七。一條冬良関白ニ再任ス。  
七年六月諸國大地震。此比多武峯大織冠像破裂ス。  
トナシ。  
八年五月久我内府源豊通右府ニ任ス。八月九条大  
納言尚經内府ニ任ス。今年將軍源義尚使ヲ朝鮮遣  
テ。一切經ノ板ヲ求。朝鮮ヨリ經ヲ摺テ贈テ板ヲハ渡サス。  
九年三月久我豊通内府ニ任ス。九月廿八日主上崩ス。  
年五十九。此比朝廷衰微シテ。御葬ノ料ナキニヨリテ。四



十日ア、リ。内裏ノ黒戸ニ置奉テ。十一月泉涌寺ニテ  
葬禮アリ。

年號踐祚ノ年公寛正六年ヲ用テ其次 文正一年

應仁二年 文明十八年 長亨二年 延徳三年 明

應九年 合テ在位三十六年

百五代

後栢原院 諱ハ勝仁後土御門院ノ太子ナリ母ハ准后

源朝子權大納言長賢カ娘ナリ。文明十二年親王宣

下アリテ將軍源義政ノ館ニテ元服御年十七義政加

冠タリ。明應九年踐祚。歳二十七関白ハ一條前相國

冬良ナリ。將軍ハ源義高管領ハ細川右京大夫政元

ナリ

文龜元年二月九條内府尚經右府ニ任ス。西園寺大

納言公藤内府ニ任ス。六月一條冬良関白ヲ辞ス。九

條尚經関白タリ。今年前將軍義村官職ヲ停ラル。義

村周防ノ大内介カ許ニアリテ名ヲ義尹ト改メ。西國ノ

武士ヲカタシメ。從ノモノ多シ。畿内近邊ハ細川政元

打レタカヘテ。暫靜ナリ。

二年七月將軍源義高從四位下ニ叙レ。參議ニ任ス。左

中將ヲ兼テ參内。同月義高名義澄ト改ム。

三年正月義澄從二位ニ叙ス。隻大旱。

永正元年饑饉。同年十月關東ノ山内上校顯定ト。扇

谷上校朝良ト。武州河越ニテ合戦。

二年二月今出川公興左府ヲ辞ス。六月近衛前関白



太政大臣政家薨ス。年六十二。同年。山内。扇谷。兩上  
校和陸ス。此時北條早雲并其子氏綱。小田原城ヨリ  
武州へ出張シ。兵威関東ニ振ル。兩上校相共ニ北條  
ヲ拒テ合戦

三年二月九條。関白尚經左府ニ轉ス。西園寺公藤右  
府ニ任ス。西三條大納言兼侍從實隆内府ニ任ス。實  
隆倭漢ノオアリテ。殊ニ詠歌ニ達セリ。三條ノ度流ナリト  
云トモ。才能ヲ以テ家ヲ興セリ。四月。實隆内府ヲ辭ス。  
鷹司大納言兼輔内府ニ任ス。九月。春日山木七千  
餘本枯

四年三月。義澄春日參籠七箇日。神樂アリ。同月  
西園寺公藤右府ヲ辭ス。四月。鷹司兼輔右府ニ任

三條大納言實香内府ニ任ス。是ニ三條ノ嫡流ナリ。轉  
法輪ト号ス。六月。細川右京大夫政元カ家人香西。又  
六逆心ヲ企テ。政元カ小臣戸倉某ニ賂ヲアタヘテ。今月  
二十三日ノ夜。政元愛宕精進ノ夕。湯殿へ入ケル。戸倉  
從入テ。密ニ政元ヲ害ス。近習波々伯部急出合ケルヲ。  
戸倉一カサレテ逃去。波々伯部モ未死。初尊氏ノ時  
ヨリ。細川四國ヲ領。賴之以來。嫡流ハ管領タルニヨリテ  
在京ス。上屋形ト号ス。賴之カ弟詮春。滿之等ハ在國  
ニ。阿波讚岐ノ内ニアリ。コレヲ下屋形ト云。政元常ニ魔  
法ヲ行ト称ゾ。潔齊ス。故ニ子ナシ。下ノ屋形讚岐守元  
勝ガ子六郎澄元ヲ養テ子トス。然トモ澄元未上洛。  
内ニ政元俄ニ討レヌ。香西等カハカラヒニテ。九條関白



尚經ノ末子ヲ養テ。細川九郎澄之ト号シ。政元ガ養子ト定ントス。洛中騷動。香西等嵐山ニ城ヲ構テ楯ゴモル。七月澄元阿州ヨリ三好筑前守長輝等三千騎ニテ攝州へ出張シ其ヨリ上洛。上京ニ陣シ。八月香西等ト百々ノ橋ヲ隔テ相戦。波々伯部先ガケシテ。戸倉ヲ討殺ス。香西モ矢ニ中テ死ス。其黨皆敗テ。細川九郎モ害セラレ洛中靜謐ス。澄元武家ノ管領トナル。政元今年四十一。大心院ト号ス。澄元時十六歳ナリ。長輝ハ信濃源氏小笠原ノ一族。阿波へ分レテ。阿波小笠原ト号ス。其子孫阿州三好ニ居ユヘシ。三好ト称ス。頼之以來四國ステニ細川ニ属スル故ニ三好モ其旗下也。故ニ澄元ヲモリタテ。香西ヲ討リヨレヨリ三

好ガ威漸アラハレテ。京ヲ窺フ心アリ。五年正月大内介多々良義興京都ノ乱。政元ガ死ヲ聞テ。時分ヨシト思ヒ。前將軍源義尹ヲトリ立テ。筑紫中國ノ勢ヲモヨホシ上洛。四月細川右京大夫澄元京ヲ没落シ阿波へ退ク。將軍源義澄モ京ヲ逃出テ。江州へ赴テ。佐々木ヲ頼ム。義尹泉塚ニテ到著ス。五月三好長輝入道希雲阿波ヨリ攝州へ出テ。京都へ乱入ス。細川佐々木等ガ兵ト牒シ合テ。大内介ト合戦ス。三好敗軍シテ。希雲并其子長光長則。京ノ百万遍ノ寺ニテ自害。六月義尹入洛。七月義尹從二位ニ叙シ。大納言ニ任シテ。征夷大將軍ニ再任ス。大内介義興幾内中國西海ノ成敗ヲ掌テ。管領ニ任ス。斯波細



川畠山ノ外他家管領トナルコト。是ヲ始トス。十二月。義尹從二位ニ叙ス。明應二年ヨリ以來十四年。義澄治世。義尹西海ヘ流浪シ。今年義澄漂泊シ。義尹既洛。復職。

六年六月。義尹參内。十月二十六日夜半。義尹ノ館ヘ盜賊夜討シテ。其寢殿ヘ乱入。義尹自ラ出テ。防テ討拂フ。疵ヲ蒙ルコト九ケ取。義澄并細川方ノ者取爲ナレヘシ。同月。義尹軍兵ヲシテ。江州ヘ發向セシム。十二月。春日造替遷宮勅使藏人。并伊長參向ス。同月。德大寺前左府實淳太政大臣ニ任ス。

七年二月十四日。京勢江州ヘ發向ス。二十八日。京軍敗北。同月。上校顯定ガ家臣長尾爲景。越後國ニテ乱ヲ起ス。顯定越後ヘ赴テ。爲景ヲ攻。其近國處々ニ一揆起ケレハ。顯定打負テ。自害。年五十七。此人十四歳ニテ。越後ヨリ鎌倉ヘ赴テ。関東ヲ領スルコト四十餘年。男子ナキニヨリテ。古河政氏ガ弟顯實ヲ養テ子トス。又憲實ガ孫憲房ヲモ養子トス。

八年二月。德大寺實淳太政大臣ヲ辭シテ。剃髮。年六十。七。同月。從二位卜部兼俱卒ス。年七十七。是ハ先祖兼延ヨリ。代々吉田ノ神主ニテ。卜祝ノ役ヲ勤ム。兼俱ニ到テ。神道ヲ佛法ニ引合せ。其術ヲ解脱ス。八月。前將軍從三位參議源義澄。江州岳山ニテ逝去。年二十一。旭山清晃ト号シ。法住院ト稱ス。後太政大臣從一位ヲ贈ラン。同月。細川右馬助政賢。四國東國ノ兵ヲモヨホシ。京ヲ



及トス將軍義尹并大内介義興京ヲ落テ舟波へ赴ク  
政賢入洛義尹モ兵ヲアツメテ敗洛政賢ト舟岡山ニテ  
合戰義興武勇ヲ勵ス政賢討死義尹暫高雄山ニ陣シ  
洛中無爲ナルニヨリテ 九月義尹帰京妙本寺ニ居テ其  
後入營

九年三月大内介義興從二位ニ叙ス船岡山ノ軍功ヲ賞  
シテナリ

十年三月義尹江州へ發向シ軍敗テ甲賀山ニ隱シ 五月  
敗京シ名ヲ義植ト改ム 十月九条尚經関白并左府ヲ  
辞ス近衛前左府尚通関白ニ再任ス

十一年三月九条前関白冬良薨ス年五十一此人モ父  
兼良ノ業ヲ續テ著ス書少クアリ 八月近衛尚通太

政大臣ニ任ソ関白ヲ辞ス鷹司右府兼輔関白ニ任ス

十二年四月兼輔左府ニ轉ス二条内府實香右府ニ任ス  
正親町二条大納言實隆内府ニ任ス是モ二条ノ庶流ナリ

十二月實望内府ヲ辞ス二条右大將尹房内府ニ任ス

十三年四月九条前関白政基薨ス年七十二 同月西三

条前内府實隆剃髮シ堯空ト号ス逍遙院ト称ス時二六

十二歳 七月北条早雲三浦城ヲ攻取三浦道寸討死早

雲乃威関東ニ振テ上秋漸衰フ 十二月近衛尚通太政

大臣ヲ辞ス

十四年正月元日小朝拜如例鷹司関白兼輔ニ障アリテ

不参二条右府實香上首ニテ事ヲ行フ 十月鷹司前関

白相國政平薨ス歳七十二當関白兼輔ノ父ナリ



十五年二月兼輔閔白ヲ辞ス二条内府尹房閔白トナル  
四月兼輔左府ヲ辞ス 同月巖山根本中堂供養將  
軍源義益登山 五月花山院前左府政長太政大臣ニ任  
ス二条右府實香左府ニ任ス二条閔白尹房右府ニ任シ  
テ太政大臣ノ上ニ列ス大炊御門大納言經名内府ニ任ス  
八月將軍源義植ノ執奏ニヨリテ中御門大納言藤原宗  
綱准大臣從一位ニ叙ス 同月從二位大内左京大夫義  
興武家ノ管領ヲ辞シテ周防國へ歸ル義興在京十餘年  
武威ヲ振フトト云トモ公家武家ノ事ヲ執行スニ雜用費  
多ク財寶漸減シケルニハ國スト云傳ス此時朝廷妻  
武將勢弱シ京都荒廢ス故公家ノ内義興ニシタレニアル  
モノ連々周防へ赴ク者アリ其外國々大名ノユカリアル公  
家ハ在國スル者多シ

十六年八月北条早雲死ス 九月義植源氏長者淳和  
兼學西院別當ニ補ス  
十七年二月細川澄元上細川高國上權ヲ爭テ合戰高  
國敗テ江州へ赴ク高國公細川民部政春カ子ナリ政  
元養子ノ約アリトナシ 五月高國又上洛 六月澄元  
死スコレニヨリテ高國威ヲ振ス攝州尾崎城ヲ構テ要害  
トス  
大永元年三月花山院政長相國ヲ辞ス 同月二十三  
日主上初テ御即位ノ禮ヲ行ル應仁亂後ヨリ公家武  
家共ニ衰微ニハ踐祚ヨリ二十餘年ヲ歷ルマテ大札延  
引ス或説ニハ二条道遙院入道ノハカラヒニテ此時御即



位料一向宗本願寺ヨリ調進ス此賞三本願寺代々門  
跡ニ准セラルト云リ 同月二十五日將軍源義植京都  
没落シテ淡路國へ蟄居是ヲ嶋ノ公方ト号ス 永正  
五年將軍再任ヨリ今年ニテ十四年ニ及リ細川高國  
ガハカラヒニテ法住院義澄ノ子義晴ノ播州ニアリテ迎  
ヘレム 六月義晴入洛 七月二条實香左府ヲ辞ス二  
條関白尹房左府ニ轉ズ大炊御門經名内府ヨリ右府ニ  
遷ル德大寺大納言公胤内府ニ任ス 同月源義晴從  
五位下ニ叙ス 十一月義晴正五位下ニ叙シ左馬頭ニ任  
ス 十二月義晴元服歳十一 細川武藏守高國加冠ノ  
役タリ 同月義植官職ヲ停テ義晴征夷大將軍ニ任  
ス高國管領トナル 剃髮シテ道永ト号ス又常桓ト改ム

二年二月義晴從四位下ニ叙シ參議ニ任シ左中將ヲ

三年三月二条関白尹房左府ヲ辞ス德大寺内府公胤  
左府ニ任ス大炊御門經名右府ヲ辞ス近衛大納言植  
家右府ニ任ス久我大納言源通言内府ニ任ス 四月  
前將軍大納言源義植阿波國撫養ト云トコロニテ逝去  
年五十八惠林院巖山ト号ス此人ノ死去暫沙汰ナレ數  
年ヲ經テ風聞セリ阿波淡路ハ細川ガ領國ナリ義植ハ  
細川三好ト旧怨アレバ其臨終イフカニ然レドモ其子孫ハ  
淡路阿波ノ内ニ住ストナシ 同年細川高國商船ヲ大明  
へ遣ス宋素卿ト云ル者ヲ使者トス素卿公元來唐人ナ  
リ日本へ渡リ細川政元ニチナシ法住院殿へモ謁シ其



使者トナリ。大明へ渡リ、倭朝ニ日本ニ住居シ、高國ニ從ケルトナリ。此時、大内、分義興モ、周防ヨリ商船ヲ大明へ渡ス。宗設ト云ル使者タリ。寧波府ニテ、素卿ト宗設ト先後ヲ爭フ。宗設ハ素卿ヨリサキニ著岸ス。先ニ出ベキヲ素卿賂ラ、寧波府ノ奉行ニマタヘテ、先出テ奉行ニ謁ス。宗設大ニ怒テ、其召ツレタル者トモヲカタラヒ、寧波府ヲ燒奉行ヲ殺シ、盤妨ス。素卿逃カクレシヲ、大明ニテ捕ヘテ禁獄ス。宗設ハ事故ナク、故國スヨリヨリ日本ノ海賊年々寧波ノ近邊ヲ濫妨ス。

五年正月、元日ノ節會、俄ニ畧セラル。其要脚未濟ニヨリテナリ。四月、一条尹房、関白ヲ辞ス。近衛右府植家、関白ニ任ス。六月、近衛相國尚通、其子、関白植家、同道春

日社參籠七ケ日、神樂ナリ

六年二月十六日、石清水八幡造、督遷宮將軍源義晴、參向細川高國山上ヲ警固シ、畠山植長ヲシテ山下ヲ守ル。山城攝津ノ守護代、路次ノ辻固ヲ勒ム。細川右馬頭澄賢、伊勢守貞孝等、武士多ク從フ。武家ノ傳奏、廣橋大納言守光、日野中納言内光等、毛扈從ス。善法寺ノ宿坊トス。鹿苑院殿以來ノ例ナリ。甲冑弓劔、神馬等ヲ奉納セラル。四月七日、主上記録所ニテ崩ス。歳六十二年號、文龜三年、永正十七年、大永六年、合テ在位二十六年。

百六代

後奈良院 諱知仁、後栢原院ノ子ナリ。母ハ准后藤子。



贈左大臣藤原教秀娘ナリ。永正九年四月十七歳ニテ  
元服親王宣下アリ。大永六年四月二十一歳ニテ踐祚  
シタニ。関白ハ近衛右大臣植家ナリ。將軍ハ宰相中將  
源義晴管領。細川高國入道常桓ナリ。  
同年九月徳大寺公胤左府ヲ辞ス。十二月義晴近國  
ノ射手ヲ召テ的始アリ。

七年三好長基入道海雲阿波國ヨリ出陣。泉峯ニ到  
テ。京ヘ攻入細川高國ト桂川ニテ合戦。高國敗北ス。越  
前ノ朝倉孝景入洛シテ。二好ト合戦。三好敗軍。

享祿元年八月近衛関白植家左府ニ轉ス。久我内府源  
通言右府ニ任ス。九条大納言植通内府ニ任ス。今年  
モ。二好。京ヲ攻テ騷乱ニヨリテ。將軍源義晴京ヲ出テ江

州ヘ赴キ。朽木民部少輔植綱ガ許ニ居ス。植綱ヨク奉公  
ス。朽木ハ佐々木ガ一族ナリ。

二年。義晴朽木ニ逗留。

三年正月勅使大外記清原良雄。朽木ニ赴ク。義晴大納  
言ニ任レ。從二位ニ叙ス。時ニ二十歳。七月九条前関白尚  
經薨ス。年六十三。

四年六月。二好海雲等。故細川澄元ガ子晴元トテ。十三  
歳ナルヲ大將トシテ。細川高國ト。尼崎天王寺ノ邊ニテ合  
戦。高國大ニ敗テ逃去ル。二好ガ勢コレヲ追懸テ。高國ガ  
民家ニ馳入テ。大ナル壺ノ内ヘ身ヲカクシ居ヲ見出シテ  
殺ス。高國ガ黨ニ嶋村某ト云モノアリ。勇力ノ士ナリ。敗  
軍ノ時敵二人ヲ左右ニ挾テ入水。其靈化メ蟹トナル。嶋



村蟹ト云ハ是ナリト云傳フ。カクテ京中モレツル  
天文元年。義晴朽木ヨリ敗京。細川右京大夫晴元管領  
ニ任ス。二好海雲威ヲ振フ。晴元ト不和ナリ。コレヨリテ海  
雲泉堺ニテ害セラル

二年二月。近衛植家関白ヲ停レテ。九条内府植通関白  
トス。十二月。皇子方仁親王元服加冠ハ二条前関白尹  
房。理髮ハ頭中將公朝也

三年十一月。九条植通関白并内府ヲ辞メ。攝津國へ出奔  
ス。十二月。一条尹房関白ニ再任ス

四年四月。義晴内書ヲ朝倉孝景ニ授テ。塗興ニ乗コトヲ聽サ  
ル。孝景軍忠アルユヘナリ。同月。慧林院義植ニ。太政大  
臣從一位ヲ贈ラル。八月。二条前左府實香太政大臣

ニ任ス。十二月。西園寺大納言實宣内府ニ任ス

五年二月。御即位ノ礼行ハル。公家武家零落ユヘ。今ニテ  
延引。今度ノ料ハ大内介義隆カ調進ストナシ。義隆ハ  
義典カ子ナリ。二月。甲斐國武田晴信元服。時十六  
歳。義晴諱ノ字ヲ賜フ。晴信後ニ剃髮シテ信玄ト号ス。信  
濃、小笠原評訪。越後ノ村上等年々合戦。六月中。納言  
藤原兼秀勅使トシテ。周防國大内左京大夫義隆カ許  
へ遣サル。義隆太宰大貳ニ補セラル。七月。叡山ノ衆徒群  
起リ。京中へ乱入テ放火シ。日蓮黨ヲ毆討テ。洛中過半  
焼亡。十月。一条尹房関白ヲ辞ス。久我通言右府ヲ辞  
ス。二条實香相國ヲ辞ス。十一月。近衛植家関白ニ再  
任ス。十一月。近衛關白辭ス。十二月。近衛關白辭ス。



六年十一月近衛関白植家太政大臣ニ任ス西園寺實  
宣左大臣ニ任ス鷹司大納言忠冬右大臣ニ任ス  
七年相弱小田原北条氏綱ガ子氏康八千ノ兵ヲ以テ  
武州河越城下ニテ山内上校憲政扇谷上校朝定ガ八  
萬ノ軍ヲ夜討シテ大ニ勝利ヲ得タリ朝定ハ討レ憲政ハ上  
野平井ヘ逃去兩上校コレヨリ表テ関東氏康ニ服ス古  
河ノ御所晴氏ヲ氏康妹婚トシテ北条ヨリ指引ス  
晴氏ガ一族頼純ヲ喜連川ニ居シム  
八年六月ニ好カ黨類蜂起京都物念將軍義晴八瀬  
里ニ赴ク朽木植綱供奉警衛ス八月一条大納言房  
通内府ニ任ス房通ハ土佐一条房家ガ子ナリ房家ハ  
兼良ノ孫教房ガ子冬良ガ姪ナリ京都ノ兵乱ヲ避

テ久土佐ニ住ス冬良子ナキニユヘニ房通ヲ上洛セシ  
メテ督トシテ其継嗣トス

九年十一月西園寺實宣左府ヲ辞ス今年出雲國  
ノ厄子晴久ト安藝吉田城主毛利元就ト合戦始ル厄  
子ハ佐々木ガ一族ニテ代々出雲國ニ住ス兵威ツヨクシ  
テ近國ヲ打シタガフ故ニ元就モ其旗下ナリシガ晴久ニ  
疑ハレ不和ナルニヨリテ大内介義隆ヘ從フ晴久怒テ數  
萬ノ勢ニテ吉田ノ城ヲ圍ム大内カ家老陶尾張守晴  
賢加勢ノタメニ來テ對陣厄子敗軍敗國ス  
十年正月鷹司忠冬左府ニ轉ス一条房通右府ニ任  
ス西一条大納言公條内府ニ任ス公條ハ實隆カ子ナ  
リ是モ倭漢ノ才アリテ博學ハ父ニコヘタリ三月公條



内府ヲ辞ス。轉法輪三條大納言公頼内府ニ任ス  
十二月大内介義隆從三位ニ叙ス太宰大貳八元ノコ  
トシ今年將軍義晴坂本へ出陣。佐々木定頼等從ヒ  
奉ル

十一年二月近衛関白植家上表 三月鷹司左府忠  
冬関白ニ任ス 閏三月忠冬左府ヲ辞ス。一条右府房通  
左府ニ轉レテ西三條前内府公條右府ニ任ス 今年  
春大内介義隆自ラ軍勢ヲ率テ出雲へ發向。尼子晴  
久カ畠田城ヲ攻陶尾張守晴賢モ毛利元就モ從テ城  
強レテ五月大内勢敗軍元就殿後タリ故ニ尼子追  
コトアタハス義隆子ナクヒニ土佐一条殿ノ子ヲ養フ  
テ新介ト称ス此戰ニ討レヌ其後元就時々周防ノ山

口へ赴テ義隆ニ謁ス家老陶晴賢ガ逆心アリテ義隆  
ト不和ナルベキヲサトリテ安藝吉田城へ皈テ其變ヲウ  
カヒ待ケリ 八月駿河國主今川義元遠江國ヲ打レ  
タカへ參河へ出張シ尾張國織田彈正忠信秀ト小豆  
坂ニ戰テ義元敗北 十一月廿六日二源家康公參河  
國岡崎ニテ御誕生清和天皇ヨリ二十六代御苗裔八  
幡太即義家ノ嫡孫贈鎮守府將軍新田大炊助義重  
ノ男得川義季ヨリハ十六代贈大納言廣忠卿ノ御子  
ナリ御母ハ傳通院殿ト申ス水野右衛門大夫忠政ガ娘也  
十二年七月西三條公條右府ヲ辞ス三條内府公頼右  
府ニ轉ス今出川大納言公彦内府ニ任ス  
十二年二月西三條前右府公條剃髮歳五十八法



名仍覺稱名院ト号ス。父道遙院入道天文六年十月  
ニ薨ス。七月洛中洛外大洪水

十四年六月鷹司忠冬関白ヲ辞ス。一条左府房通土  
佐ヨリ上洛関白ニ任ス。二条公頼右府ヲ辞ス。今  
出川内府公茂右府ニ任ス。二条左大將晴良内府ニ任  
ス。房通京都土佐往来セリ。房通弟房冬ハ土佐  
一条ノ家ヲツク。其外ノ公家モ在京ナリカタキニヤ。二  
条前関白尹房ハ備後ニテリ。後ニ周防ヘ赴キ大内介  
ヲタノミ。九条前関白植通ハ攝津ニテリ。テ播磨ヘ移リ。三  
条右府公頼飛鳥井大納言雅綱ハ越前ヘ下向。時  
々在京ス。冷泉大納言爲和ハ駿河ニ赴ク。其餘或関  
東ヘ下リ。或伊勢美濃ノ邊ニヤスラヒ。武士ニ寄食スル

モノ多シ。偶在京セシ輩ハ朝夕ノタクワヘサヘトホシクテ。人  
家ニ餉モノモアリトヤ

十五年正月一条関白房通左府ヲ辞ス。三條公頼左  
府ニ任ス。二月八公頼辞退。今出川ハ全彦左府ニ任ス。二  
條晴良右府ニ轉任ス。万里小路大納言藤原秀房内  
府ニ任ス。七月秀房辞退。一条大納言兼冬内府ニ任  
ス。同月將軍義晴ノ子義藤十一歳。從五位下ニ叙ス。  
十二月十八日義晴義藤ヲタツ弁ヘ坂本ヘ赴キ。十  
九日日吉ノ神主樹下カ宅ニテ。義藤元服ノ義アリ。武  
家ノ管領ニヨリテ。佐々木六角彈正少弼定頼ヲ四品  
ニ叙シ。管領代トシテ。加冠ノ役ヲ勅シ。理髮ハ細川中  
務大輔晴經ナリ。打乱ハ佐々木民部少輔植綱泚坏ハ



佐々木中務少輔高保ナリ。二十日義藤征夷大將軍ニ任シ。正五位下ニ叙シ。左馬頭ニ任ス。義晴ハ右大將ニ任セラル。勅使廣橋大納言兼秀等禄ヲ授ラズ。此時細川晴元并ニ好カガ一族攝州ニ出張シ。京都物念ニヨリテ。坂本ニテ執行トナシ。

十六年二月大内介義隆進貢船ヲ大明へ遣ス。赤死院殿ノ比ヨリ。大内介代々異國往來ノ事ヲ掌テ。勘合ノ印ヲアツカリ。周防國ニテ船ヲ作り。使僧ヲ發船セシムル例ナリ。同月今出川公茂左府ヲ辞ス。一条晴良左府ニ轉シ。一条兼冬右府ニ任シ。近衛大納言晴嗣内府ニ任ス。將軍源義藤參議ニ任シ。左中將ヲ兼シム。三月細川右京大夫晴元并ニ好カガ一族京都へ押寄

ントスルニヨリテ。義晴義藤北白川城ニゴモル。四月晴元四國ノ勢ヲ率テ。東山陣ニ北白河ノ邊ヲ放火シテ。攝州へ皈ル。七月晴元入洛相國寺ニ陣ス。佐々木弾正定頼ハ晴元ガ舅ナルユヘ。江州ノ兵ヲモヨホシ。北白河城ヲ圍ム。義晴義藤城ヲ燒テ坂本へ赴ク。晴元定頼共ニ其罪赦免セラレテ。坂本へ參テ謝ス。

十七年六月義晴義藤阪洛晴元管領タリ。十二月一条房通関白ヲ辞ス。一条左府晴良関白トナル。今年大内義隆從二位ニ叙ス。

十八年三月ニ好範前守長慶ト。三好宗三ト攝州ニテ。諍論ノ事アリ。細川晴元トトヘ。三好宗三ヲ具顯肩メ。長慶怒テ宗三ガ居ケル中嶋城ヲ攻破ル。宗三江波城ニ入ル。細



川晴元ハ三宅城ニコモル。佐々木定頼モ晴元ニカヲ合スベ  
シト約ス。長慶等故細川高國ガ子次郎氏綱ヲ取立  
テ。大和河内ノ勢ヲシタガヘテ。中鳴ノ城ニコモル。長慶ハ希  
雲ガ孫海雲ガ子ナリ。六月宗三江波ヲ出テ。江口ニ出  
陣。長慶其弟十河民部一存ト同ク三宅ノ城ヲ攻。江  
口ヘモ打出ケレハ宗三八討死シ。晴元ハ城ヲ出テ。潛ニ入  
洛。佐々木定頼ガ子左京大夫義賢ニ万餘ノ勢ニテ。  
近江ヲ出テ。京中ニ陣シケルガ。晴元ガ敗軍ヲ聞テ。近江  
へ飯ルゴレニヨリテ。前將軍義晴。當將軍義藤并細川晴  
元等以下。京ヲ落テ坂本ニ赴ク。七月三好長慶入  
洛シ。巡見シテ攝州へ飯ル。松永彈正久秀ヲ京都ノ  
留守トス。十一月義晴不例。今年尾州ノ織田備後

守元ハ彈正忠信秀死去。其子上総介信長其跡ヲ相續ス。國  
中并近國ノ敵トモ打シタガヘテ。武威大ニ振フ。  
十九年二月。細川晴元佐々木定頼如意イカダケ獄城ヲ築ク。  
三月。義晴新城ニ移ラシトテ。坂本ヲ出テ。穴太山中ニ暫  
逗留ス。不例ヲモキニヨリテナリ。五月四日。前征夷大  
將軍大納言兼右大將源義晴。江州穴太山中ニテ逝  
去。年四十。萬松院ト号ス。左大臣從一位ヲ贈ラル。大永  
元年ヨリ今年ニテ。治世三十年ナリ。義藤移テ比叡ヒヒ過  
ノ寶泉寺ニ居ル。晴元定頼義賢警衛ス。十一月三  
好長慶攝州ヨリ上洛。東山放火進テ。大津松本ニ到。  
晴元等カ家人敗走。  
二十年三月。三好長慶洛中地子錢ノ事ヲ下知ス。



七月晴元が郎從相國寺ニコモル。長慶押寄テ放火。八月大内介義隆が家老陶尾張守晴賢謀叛シテ。義隆が居城山口へ押寄。義隆敗軍ニ若見ノ吉見正頼ヲタノミントテ落行ケルヲ。陶が兵追カケレハ。九月朔日。義隆長門ノ深川大寧寺ニテ自害。年四十五。冷泉判官高豊等以下數十人。一取ニ死ヌ。此時二条前。関白尹房。三條前。左大臣公頼。左中將藤原良豊。京都ノ兵乱ヲ避テ。義隆カ許ニマリテ。同ク害セララル。中納言藤原基頼。右兵衛督藤原親世モ。一所ニアリケルガ。髮ヲ剃テ逃去ヌ。陶晴賢ハ兼テヨリ約諾ルニ。ニ陶安房守ヲ使トシテ。豊後ノ大友宗麟カ弟。三郎義長ヲ周防山口へ呼テ。大内身跡ヲツカシメ。晴賢已カホシヒニ

ニ執行ス。剃髮シテ全養ト号ス。義隆討レシ時。大明勘合ノ印判失テ。日本大明渡海止ヌ。此時分ヨリ。南蛮ノ船来テ。耶蘇ノ宗旨起レリ。大友宗麟。此宗ニヲモムキケルトナン。今年相州北条氏康。上野平井城ヲ攻落ス。上杉憲政越後へ逃行。憲政ガ子龍若ハ。生捕レテ害セララル。憲政ハ越後へ落テ。長尾景虎入道謙信ヲ憑ミ。上杉ノ氏。并関東管領号ヲ景虎ニユツリ。北条ヲ討テ耻ヲス。カント子カラ。関東太半氏康ニ属ス。然レトモ。此時今川義元ハ駿河ニアリ。武田信玄ハ甲斐ニアリ。長尾景虎ハ越後ニアリ。安房ニ里見アリ。佐竹義重ハ常陸ニアリ。葦名盛高ハ會津ニアリ。関東ノ合戦ヤムコトナレ。其外越前ニ朝倉アリ。能登ニ畠山アリ。美濃ニ土



岐齊藤アリ。尾張ニハ織田信長アリ。伊勢ニハ國司  
北畠アリ。近江ニハ佐々木定頼義賢アリ。畿内南海ニハ  
三好松永カ一族播磨備前美作ニハ赤松カ餘類宇  
喜田カ一族中國ニハ陶全姜毛利元就尼子晴久吉  
見正頼カ徒相争フ。豊後ニハ大友カ族肥前ニハ龍造  
寺隆信アリ。薩摩大隅ニハ嶋津義久アリ。諸國相分テ  
一日モ靜ナラス

二十一年正月將軍源義藤坂本ヨリ歸洛。細川晴元  
ハ馳長レテ堅田ヨリ出奔ス。二月細川氏綱并其弟  
藤賢攝州ヨリ上洛。三好長慶同道。三月氏綱ハ右  
京大夫ト号レ。藤賢ハ右馬頭ト号ス。代代管領ノ名ヲ  
存ストイヘトモ細川ハ衰テ。三好遂ニ洛中畿内南海

ノ權ヲ執リテ攝津ニ住ス。三好カ家人公永彈正久  
秀在京。其威ニ三好ニヒトレ。十二月一条閑白晴良左  
府ヲ辞ス

二十二年正月一条晴良閑白ヲ辞ス。一条右府兼冬  
閑白トナリ。左府ニ任ス。近衛内府晴嗣右府ニ任。西  
園寺大納言公朝内府ニ任ス。七月將軍源義藤細  
川晴元ヲユルレテ歸洛セシム。八月三好筑前守長慶  
二万人ヲ率テ入洛。義藤并晴元丹波へ没落。十餘  
日ヲ經テ歸洛

二十三年二月一条閑白兼冬薨ス。年二十六。同月  
義藤名ヲ義輝ト改ム。三月近衛右府晴嗣閑白ト  
ナリ。左府ニ任ス。名ヲ前嗣ト改ム。四月西園寺公朝



右府ニ任ス。正親町三條大納言公光内府ニ任ス。即  
辭退

弘治元年。安藝ノ毛利元就上。周防ノ陶全姜上。年々合  
戦ス。今年十一月。元就俄ニ全姜ヲ攻テ。戦勝。全姜自  
害。大友義長公長門ニテ自害。元就遂ニ長門周防ヲ  
討平ク。其嫡子隆元。其次吉川元春。其次穗田元清  
其次小早川隆景。皆軍事ニ達セリ。元就ハ其ヨリ備  
中へ出張。備前ノ宇喜田直家。和ヲ乞フヨリテ。帰陣シ。  
隆元ヲ周防ニ留テ。豊後ノ大友ヲ押テ。元就并元春  
隆景公。出雲へ發向シ。富田ノ城ヲ攻テ。尼子晴久ト合  
戦シ。年月ヲ送レリ。

二年七月。大明ノ使者鄭舜功。豊後へ来リ。書簡ヲ京

都へ捧ク。筑紫ノ海賊。大明ノ邊境ヲ盤妨スルコトヲ訴  
ス。返簡ヲ遣サル。

三年九月。近衛關白前嗣左府ヲ辞ス。西園寺公朝  
左府ニ任ス。花山院内府家輔。右府ニ任ス。廣橋大納言  
兼秀。内府ニ任ス。即剃髮。同月五日。主上崩ス。年六十  
二年。号踐祚ノ翌年。大永七年ヲ用テ。其次 享祿  
四年。天文九年。弘治三年。在位合ニ十一年

百七代

正親町院 諱方仁。後奈良院ノ子ナリ。母ハ贈皇后榮  
子。参議藤原賢房カ娘ナリ。弘治三年。十一月二十七  
日。踐祚。時ニ歳四十二  
永祿元年。二好松永カ乱ニヨリ。將軍源義輝并細川



晴元朽木へ没落 九月義輝并晴元坂本ヨリ進發  
シ勝軍山ノ城ニ旗ヲ立ル松永彈正ト白川ニテ合戰  
十一月三好長慶ト和睦義輝ハ歸洛シ晴元ヲハ  
芥川ニ囚ヘ蟄居セシメ年ヲ經テ死ス

二年五月越後長尾景虎入洛義輝ニ謁關東管領  
職ヲ申請又輝ノ字ヲ受テ輝虎ト号ス月ヲ經テ歸  
國

三年正月御即位禮行ル此料毛利元就調進ニヨリ  
テ大膳大夫ニ任シ菊桐ノ紋ヲ賜ル後ニ陸奥守ニ任  
ス元就ハ大江廣元カ末ナリト稱ス故大膳大夫陸  
奥守皆廣元カ例ヲ慕ケルニヤ 五月今川義元駿  
河ヲ發シ遠別參カカヲ歷テ尾州桶狭間ニテ織田

信長ト合戰義元討死信長遂尾張一國ヲ平均ス  
此時 家康公參州岡崎城へ入御 九月近衛閑  
白前嗣越後へ下向當職ノ執柄他國ニ居ハ是ヲ始トス  
十月長尾景虎姓名ヲ上枚輝虎ト改メ越後ヲ發シ  
關東へ出張シ管領ト稱ス上野ノ沼田厩橋名和等ノ  
諸城ヲ攻落ス

四年正月三好修理大夫長慶カ子筑前守義長上洛  
義輝ニ謁ス新宅ヲ築テ義輝ノ渡御ヲ望ム義輝許  
諾ス 二月長慶河内飯盛城ヨリ入洛 同月晦日義  
輝威儀ヲツクロヒテ義長トカ宅へ來臨饗應猿樂等ア  
リ其後義長カ器量アルヲ松永彈正久秀ムツカシク思  
ヒ密ニ毒ヲスハメテ殺ス長慶既ニ老タリ其弟十河一



存カ子義繼ヲ養テ繼嗣トス。松永弥權ヲ振ヘリ。今年ノ春。上杉輝虎関東ノ諸士ヲカタラシ。北条氏康ノ戦ヒ勝ニ乗テ。小田原ヘ攻入。城門蓮池ノ邊ニテ押詰。城既ニ危シ。然トコロニ輝虎鎌倉鶴岡ヘ參詣。成田長康ガ不礼ナルヲ怒テ。扇ヲ以テ頬ヲツツ。成田忍城ニ帰テ謀叛ス。コレヨリ関東武士皆輝虎ヲ背ク。輝虎越後ヘ皈ル。関東又氏康ニ属ス。其秋輝虎上野信濃ヘ進發シ。九月十日。河中嶋ニテ甲斐ノ武田信玄ト合戦シ。各飯國輝虎信玄牛角ノ敵ニテ。上州ヲ争テ数年對陣。五年春。毛利元就ト豊後ノ大友ト合戦ス。義輝ヨリ聖護院明跡道澄ヲ元就ヘ遣シ。久我大納言源通興ヲ大友ヘ遣シ。和睦セシム。元就ガ嫡孫輝元ヲ大友カ婿トスヘ

レト約シテ。戦ヲ止ム。今年。近衛前嗣。越後ヨリ帰京。名ヲ前又ト改ム。

六年正月。安房ノ里見并武州岩築太田ニ樂等。北条氏康并其子氏政ト。武州國府臺ニテ合戦ス。里見等敗北。十二月。三条称名院入道仍覺薨ス。年七十七。今年。毛利元就出雲富田城ヲ攻落ス。尼子晴久降參ス。元春隆景コレヲ殺シト云。元就其死ヲタメテ。安藝ヘ遣シ。囚ヘ置。弘治二年ヨリ今年ニテ。七年ハカリ對陣シ。尼子没落ス。元就ガ領スルトコロ。安藝周防。長門。備中。備後。因幡。伯耆。出雲。隱岐。石見。合十ヶ國ナリ。十州太守ト称ス。コレヨリ以後。豊後ノ大友ト合戦シ。又四國ヘモ出張シ。又備前ノ宇喜田直家トモ。年々合戦



元就ハ漸老タルニ吉川元春小早川隆景ヲシテ出陣セシム直家ハ元來赤松ガ家人ナリ赤松ガ家臣浦上基赤松ヲ追出シテ播磨美作備前ヲ奪テ直家又浦上ヲタラシテ其地ヲ押領スト云傳フ

七年織田信長美濃ヲ攻取テ齊藤龍興ガ一族ヲ平テ尾州清洲ヨリ美濃岐阜ノ城ニ移居ル

八年五月將軍源義輝武威衰テ二好松永ガ逆威ヲ振フコトヲ惡テ密ニ誅罰ノ事ヲ議スルヨシ風聞ス 同月

十九日二好左京大夫義繼并松永彈正方子右衛門久通等兵ヲ率ヒ御所ヲ圍ヒ警衛者戰死義輝モ自ラ

出テ防戦ニ勢盡テ火ヲ放チ營ヲ燒テ義輝死ス歳三十。母慶壽院モ同没ス。義輝ノ弟二人アリ一人ハ奈良

一乘院門跡覺慶ト云一人ハ鹿苑寺周高ト云。周高

ヲバニ好松永使ヲ遣シ招キテ出京ノ路ニテ討殺ス。覺慶ハ早クサテリテ春日山ヲ踰テ近江國へ赴キ佐々木義賢入道承禎ヲタノミ居テ還俗シテ義昭ト号ス

六月義輝ニ左大臣從一位ヲ贈リ光源院ト号ス。天文十五年ヨリ將軍ニ任シ十九年ヨリ治世今年マテ

十六年凡尊氏建武二年入洛セシヨリ今年マテ或父子或兄弟相續シテ將軍十三代合二百三十一年ナリ

九年十二月源義榮叙爵

十年八月佐々木承禎カ子義弼密ニ好ト内通シ義昭ヲ弑シテ義昭聞テ若狹へ逃行武田義統ヲ頼テ二好

追討ヲ議セラレケレモ叶ガタキニ越前越前朝倉右



衛門督義景ヲ頼三暫居住せラル

十一年二月。左馬頭源義榮征夷將軍ニ任せラル。五月。上牧謙信。北条氏康ト和睦シ。氏康カ末子三郎ヲ養テ子トス。七月。義昭越前ヨリ。細川兵部大輔藤孝。上野中務大輔清信ヲ使者トシ。美濃。岐阜へ遣シ。織田信長へ。三好追討ノ事ヲ憑ル。信長許諾シ。不破河内守。浅井備前守長政ヲ副テ。義昭ヲ迎フ。義昭即岐阜へ赴ク。八月。信長江州へ出張シ。使者ヲ以テ佐々木承禎ニ。二好追討ノ事ヲ談ス。義禎同心せず。九月。信長兵ヲ率テ。承禎カ領内箕作城。和田城等ヲ攻落ス。承禎及子義弼。觀音寺城ヲステ。没落ス。江州處々ノ城皆陥ル。義昭岐阜ヨリ江州守山ニ到ル。同月。京都

ニテ將軍源義榮腫物ヲ病テ卒ス。同月二十八日。義昭信長入洛。義昭ハ清水寺ニ居リ。信長ハ東福寺居リ。十月。義昭信長。攝州ニ發向シ。二好カ一族ヲ攻平ク。松永彈正久秀以下。三好カ黨降参スル者多シ。畿内平均。義昭六條本國寺ニ住シ。信長ハ清水寺ニアリ。同月十八日。義昭征夷大將軍ニ任シ。参議左中將ニ昇進シ。從四位下ニ叙ス。十一月。近衛閑白前久武命ニ違ヒ。職ヲヤメテ。一条晴良再任ス。十二月。皇子誠仁親王宣下。元服加冠ハ晴良。埋髮ハ經元朝臣ナリ。同月。今川義元カ子氏真没落。武田信玄。駿河ヲ取ル。北条氏政兵ヲ遣シ。氏真ヲ救フ。コレニヨリテ。北条武田合戦止マシム。



十二年正月二好カ餘黨京都へ乱入。義昭拒テ退ク。  
信長岐阜ヨリ上洛。一条ノ御所ヲ造テ。義昭ヲシテ居  
シム。五月。信長岐阜ニ飯ル。木下藤吉即秀吉ヲ。京都ニ  
留テ義昭ヲ守シム。秀吉ハ尾州愛智郡中村郷ノ微賤  
ノ人ナリ。初ハ遠加ノ松下之綱ニ仕シガ。永祿元年ヨ  
リ。信長ニ謁シ。数度軍功稜群。次第ニ登庸セラレテ。如此  
六月。義昭從二位ニ叙シ。大納言ニ任ス。八月。信長伊  
勢國ヲ攻破ル。國司北畠具教。其息女ヲ。信長ノ次男  
信雄ニ嫁シテ。國ヲ讓ル。然トモ具教遂ニ害セラレテ。勢  
州平埴。十月。武田信玄関東へ出張。北条カ兵ト  
三増山ニテ合戦。信玄勝利ヲ得タリ。十一月。信長  
上洛内裏ヲ修理セシム。今年。家康公遠加濱松

城へ入御。参功遠カ功ノ間ニテ。年々御合戦并信長處  
々ノ出陣ニ御加勢ツカハサル。其御軍功最イチレルシ  
元龜元年四月。信長越前へ發向。朝倉義景ガ手筒  
山。金崎城ヲ攻落ス。時。淺井備前守長政謀叛シ。信長  
ノ後ヲサヘキル。信長驚テ。秀吉ヲシテ。朝倉ヲ押シメテ。  
朽木谷ヲ經テ入洛。此時。家康公後殿ニタマフ。五月。  
信長岐阜へ飯ル。千草越ヲ過ルトキ。佐々木承禎密ニ  
枚谷善住房ヲシテ。鉄鉋ニテ信長ヲ子ラフ。其放ツ兩  
玉。信長ノ著衣ニアタル。信長幸ニ免テ帰城。六月。淺  
井長政朝倉義景。江州姉川ニテ信長ト合戦。家康  
公御加勢ニヨリテ。朝倉淺井敗軍ス。同月。毛利元就  
安藝吉田ノ郡山ニテ病死。年七十五。嫡男隆元早世ニ



ヨリニ嫡孫右馬頭輝元遺跡ヲ相續ス吉川元春小早川隆景コレヲモリタツ 八月三好山城守同日向守等攝州ニ蜂起 九月信長攝州ニ發回義昭モ出陣大坂本願寺門跡光佐モ信長ヲ叛ク信長ノ兵コレト戦フテ利ヲラスシテ退ク前田利家殿後シテ敵ヲ防ク此時朝倉淺井又江州ニ出張叡山ノ衆徒同意ス信長義昭攝州ノ戦ヲヤメテ敗洛ノ江州へ赴テ叡山ヲ攻十月北条左京大夫氏康病死年五十六氏政其跡ヲ續氏政ハ信玄カ婿ナルニヨリテ和睦 十一日義昭ノアツカヒニテ信長上朝倉淺井ト和睦ス佐々木承禎ハ既信長へ降参

二年九月信長江州へ出張ニ比叡山ヲ燒破ル明智光

秀ヲ坂本城ニ居シムヨリサキ武田信玄京都へ攻上ントスル志アリテ密ニ義昭へ内通朝倉淺井并叡山ノ僧徒ヲカタラヒテ信長ヲ討ントハカル信長コレヲサトリテ叡山ヲ亡ス

三年正月勸修寺大納言藤原尹豊内府ニ任ス年七十即辞退ス 七月信長ノ嫡子信忠初テ江州へ出陣淺井朝倉カ兵ヲ破ル 十二月武田信玄遠州一言坂ニ出張ニテ方原ニテ家康公ト合戦

天正元年正月信長條敷ヲ以テ信玄ヲ罪ヲ義昭ニ訴テ信玄モ使者ヲ以テ信長ノ罪ヲ數テ義昭ニ訴テ信長義昭不快 二月義昭要害ヲ石山堅田ニ構テ信長ヲ指テ敵トス信長怒テ柴田勝家丹羽長



秀明智光秀等ヲ遣テ石山堅田ノ城ヲ攻破ル  
三月信長上洛義昭和睦ヲ乞信長ユルレテ岐阜へ皈ル  
四月武田信玄死ス年五十二其子勝頼相續シテ  
甲斐信濃駿河并上野ノ内ヲ領ス 六月方里小路大納言惟房内府ニ任テ即日薨ス年六十一  
七月義昭又信長ニ敵シテ宇治真木島ニ據籠ル信長  
急キ上洛宇治へ發向真木嶋ヲ攻ヤブル義昭死罪  
ヲ宥シユトヲ請信長憐テ佐久間信盛木下秀吉ヲ  
シテ義昭ヲ河内ノ若江ノ城へ送テ替居セシム信長  
其餘黨ヲ平テ岐阜へ歸ル義昭流浪ニ剃髮シテ  
昌山ト号ス後ニ靈陽院ト稱ス 八月信長越前へ  
發向朝倉義景戰敗テ一乘谷ニ隱ル其家老朝倉

式部景鐘圓忠シテ義景ヲ殺テ降參越前平均信長  
兵ヲ返シ江州小谷ヲ攻破ル淺井備前守長政其父下  
野守久政共ニ自害秀吉ヲシテ小谷城ニ居シム 九月  
信長江州餘江城ヲ攻落佐々木義弼没落ス板谷善  
住房ヲ捕テ竹鋸ニテ截殺ス 十一月信長河内へ發向  
シニ好左京大夫義繼ヲ攻殺ス  
二年二月花山院家輔右府ヲ辞ス九条大納言兼  
孝右府ニ任ス 二月信長上洛參議ニ任シ從三位  
ニ叙ス 同月信長奈良ニ赴テ東大寺ノ蘭奢待ヲキ  
ラシム日野大納言資定飛鳥井中納言雅教勅使タ  
リ佐久間信盛等奉行タリ 四月信長皈京大坂本  
願寺路ヲ遮ル佐久間信盛ヲ天王寺ニ留テ本願寺



ヲ押シメテ岐阜へ飯ル 七月信長信忠尾州へ發向  
長嶋へ向宗ノ一揆ヲ攻破ル此時本願寺信長ニ叛  
ク故ニ其門徒諸國ニテ蜂起

三年三月信忠出羽介ニ任ス 五月武田勝頼遠州ニ  
出張シ長篠城ヲ圍ム 家康公加勢ヲ信長ニ乞ヒテ  
信長信忠大軍ヲ率テ出陣ス長篠ニテ合戦 家康  
公ノ御先手勇ニ進ム信長ノ大勢ツキテ攻勝頼大  
ニ敗ル死者甚多是ヨリ以後甲州勢ト數度遠近馳騁  
刃ニテ御合戦アリ 六月信忠正五位下ニ叙ス  
八月朝倉カ餘黨蜂起ス信長信忠越前へ發向シテ  
皆平ク越前ヲ柴田勝家ニアタヘテ北國ノ鎮トス  
十一月信長上洛權大納言ニ任シ右大將ヲ兼シ信

忠秋田城介ニ任ス 同月一条大納言内基内大將  
ニ任ス 十一月秀吉ヲ越前守ニ任スコレヨリサキ秀  
吉自ラ羽柴氏ト号ス柴田勝家丹羽長秀カ信長ノ  
旧臣ニシテ威勢アルヲ羨テ入ノ氏ヲ一字ツク取テ  
巴カ氏トセリ 今年近衛前關白前久薩摩へ下向  
ス二年ヲ經テ帰洛ス

四年正月信長江州安土城ヲ築ク信忠從四位下ニ  
叙ス 二月信長安土ニ移居信忠ヲ岐阜ニ居ル  
三月西園寺公朝左府ヲ辞ス 四月本願寺光佐  
木津難波ノ城ヲ構 五月信長發向佐久間右衛門  
尉信盛等ヲ攻シム 八月信忠從四位上ニ叙ス  
十一月信長入洛九条兼孝左府ニ任ス 一条内基



右府ニ任シ信長内府ニ任シ正三位ニ叙ス 十二月  
信長參河ノ吉良ニ狩ス

五年正月信忠正四位下ニ叙ス 二月信忠信雄信  
孝紀州へ赴テ雜賀ノ一揆ヲ退治ス信孝ハ信長ノ三  
男ナリ 七月近衛前久ノ子信基元服信長ニ請テ  
加冠セシメ信ノ字ヲ授ラル前久後ニ龍山ト号シ信基  
ハ二藪院ト号ス 八月松永彈正久秀大和信貴ノ  
城ニモリ謀叛本願寺并雜賀ノ餘黨ヲカタラフ  
九月信忠進發 十月信貴ノ城ヲ攻落シ久秀焚死  
ス其子久通執へラレテ殺サル信忠ハ上洛從三位ニ  
叙シ左中將ニ任ス信忠安土ニ赴キ岐阜へ皈ル  
同月信長播磨ヲ秀吉ニアタヘテ中國ヲハカフシ秀

吉即播州へ赴キ十一月福岡上月ノ城ヲ攻落シ又  
沮馬國ヲ擊取ル宇喜田直家ハ備前美作ノ兵ヲ以  
テ秀吉ニ屬ス 同月九条兼孝左府ヲ辞ス一条内  
基左府ニ任ス信長右府ニ任ス一条大納言昭實内府  
ニ任ス 今年越後上杉謙信關東北國へ兵勢ヲシメ  
シ入洛シテ信長ト一戰セシト欲ス筑紫ニテハ大友左  
衛門尉義鎮其子義統豊前豊後筑前筑後肥前  
肥後ノ兵ヲ催ニ日向國へ發向ス鳴津義久薩摩大  
隅日向ノ勢ヲ以テ大友ト合戰大友敗北コレニヨリテ  
肥前ノ龍造寺隆信タチニ千大友ニ背ク肥後國城  
主親政ト云ハ菊池ノ末ナリ是モ大友ヲシテ九州  
大ニ乱シ鳴津大友龍造寺等合戰不止



六年正月信長正一位三叙ス。三月越後ノ上杉謙信死ス。年四十九。養子北条三郎其跡ヲ相續ス。謙信ガ姪喜平次景勝ト。三郎ト相争テ合戦ス。上杉憲政猶存生ニテ。アツカフト云トモキカス。北条氏政加勢ヲ遣レテ。三郎ヲ救フ。武田勝頼ハ景勝ガ賂ヲウケテ。加勢ヲ景勝ヘ遣レ。三郎ヲ殺ス。憲政モ同ク害セラル。景勝越後ヲ領ス。コレヨリ氏政ト勝頼ト不和。四月。一条晴良関白ヲ辞ス。信長モ右大臣右大將ヲ辞ス。同月毛利輝元播州ヘ出張シ。秀吉ト對陣ス。七月。信忠并丹羽長秀瀧川一益等播州ヘ出張シ。神吉城志方城ヲ攻落シ。秀吉ヲレテ。同國三木城ヲ攻シム。十月。荒木攝津守村重攝州ニ謀叛ノ。伊丹城ニコモル。信長信忠發向レ。諸將ヲレテ攻シメテ。

安土ニ皈ル。十一月。九条兼孝関白トナル。一条内基左府ニ任ス。

七年正月九日。一条昭實右府ニ任ス。西一条大納言實枝内府ニ任ス。廿二日。實枝内府ヲ辞ス。廿四日。實枝薨ス。年六十九ナリ。廿七日。菊亭大納言晴季内府ニ任ス。實枝初名ハ實澄。又實世トモ實延トモ云リ。法名ハ豪空。三光院ト号ス。是ハ逍遙院實隆ノ孫。称名院公條ノ子ナリ。父祖ノ業ヲウケテ。倭漢ノ才アリ。故ニ清華ノ嫡流トラス。ト云トモ。二代相繼テ任。槐ノ榮アリ。一月。信長上洛。攝州進發。四月。廿七日。鳥丸大納言藤原光康准大臣。同日ニ薨。年六十七。同月九日。一条前関白晴良薨。年五十四。五月。信長安土ニ帰ル。浄土宗ト。日蓮宗ト。



宗論アリ 六月明智光秀河内波國ヲ平ク 八月信長攝州へ進發 十月伊丹城没落荒木攝津守村重逃去其一族妻子ヲ生捕洛中ヲワタシ斬罪

八年正月秀吉播州三木城ヲ攻落ス城主別取小三郎長治滅亡 二月菊亭時季内府ヲ辞ス德大寺大納言公維内府ニ任ス 七月公維辞退メ晴季内府ニ再任ス 同月大坂本願寺門跡光佐顯如ト号ス勅詔ニ應ジテ大坂城ヲ信長へ渡シテ和州雜賀ニ移テ使者ヲ安土岐阜へ献ジテ謝ス

八月信長大坂へ赴テ佐久間信盛方數年大坂ヲ攻テ功ナキヲ怒テ其所領ヲ没收ス 十一月柴田勝家加賀ノ一揆ヲ平ク 同月菊亭時季内府ヲ辞ス近衛大納言

言信基内府ニ任ス

九年正月秀吉播州姫路城ヲ築ク 二月信長上洛 禁裏ノ前ニ馬場ヲ構テ馬揃アリ 主上厭覽 同月越

後長尾景勝越中ニ出張佐々内藏助成正等ニテ拒ク 景勝退ク 二月遠州高天神城没落甲州ノ兵多ク死

ス其首トモ濱松ヨリ安土へ遣サル 四月九条兼孝関白ヲ辞ス 一条内基関白ニ任ス 十月秀吉因幡島取城ヲ攻落ス 十一月秀吉安土へ参向

十年正月宇喜田直家死ス秀吉其趣ヲ信長ニ申テ直家カ子秀家幼少ナリト云氏遺跡相續ス 一月近衛前関白前久太政大臣ニ任ス 同月武田勝頼信州へ進發木曾ヲ攻木曾義昌加勢ヲ信長ニ乞信



長許諾ス信長ハ兵七万ヲ率テ伊奈ニ向ヒ信忠ハ五  
万人ニテ木曾へ向フ家康公三万人ニテ駿河へ御  
出張比奈氏政モ関東口へ加勢ヲ發ス信忠信州處  
々ニテ勝頼ト合戰勝頼敗テ甲州新府へ退勝頼カ一族  
穴山梅雪等降參ス其外一族即從皆分散ス信易高  
遠城モ没落ス三月信忠諫訪ニ到ル家康公ノ兵穴  
山梅雪ヲ案内者トシテ甲州へ攻入勝頼新府ヲ落テ  
都留郡内へ赴キ家人小山田左兵衛ヲ憑シテ小山  
田拒テ不納之勝頼田野ノ天目山ニ隱ル相從者皆  
落失ヌ信忠甲府ニ入テ龍河一益河虎肥後守ヲシテ  
天目山ヲ攻シテ勝頼并其子信勝等自害勝頼城三  
十七信勝年十六其餘黨皆殺サル其後信長諫訪

へ到着上野國并信州ノ内佐久小縣一郡ヲ龍河一  
益ニ賜テ関東ノ管領トス駿河國ヲハ家康公へ進せ  
ラル甲州ヲハ河尻ト穴山トニ分アタス信州數郡諸士ニ  
分テ恩賜ス四月信長甲府へ赴キ駿ヲ經テ東海道  
ヨリ安土へ皈ル五月信長土佐伊豫讚岐阿波ヲ三  
男三七郎信孝ニ授テ舟羽長秀等ヲ副テ發向セシム  
同月家康公安土へ入御信長ニ御對面明智光秀  
ヲシテ馳走セシム此時秀吉備中冠城ヲ攻テ毛利輝  
元ト對陣シ加勢ヲ乞信長池田信輝明智光秀等ヲ  
シテ發向セシム同月家康公御上洛直ニ泉塚へ渡  
御アリ信長モ上洛六月朔日信長本能寺ニ寄寓ニ  
日黎明明智日向守光秀謀叛シテ俄ニ本能寺へ寄



来。信長ノ近臣森蘭丸等以下戦死。信長火ヲ放テ自  
害年四十九。信忠ハ妙覺寺ニ宿メ。本能寺へ赴ントス。  
火ノアガルヲ見テ。信長己薨スルヲサトリ。二条御所ニ  
入ル。此御所ニハ誠仁親王并若官ノヲハセシテ。所司代  
村井春長カハカラヒニテ。俄ニ禁中へ行啓ナレ奉ル。光  
秀来テ。二条ヲ攻破ル。信忠自害ス。年九八。村井春長  
等以下。討死者多シ。光秀威ヲ洛中ニ振ヒ。地子錢之  
ルレテ。町人ヲ懐ク。光秀安土へ赴テ。財宝ヲ奪取テ。家  
人ニ分マタエテ。阪洛。家康公泉原ヨリ入洛シ。光秀  
ヲ討テ。議ス。然レドモ御家人ノ諫ニヨリテ。直ニ遠州  
へ御帰。此度穴山梅雪供奉シケルカ。路次ニテ。揆  
ニ害セラシム。秀吉ハ備中ニテニレヲ開テ。冠城ヲ攻取テ

毛利ト和睦ヲ約シ。播州姫路へ。坂リ。尾崎へ到テ。織田  
三七信孝。丹羽長秀。池田信輝。并高山右近。中川瀬  
兵衛等ヲカタラヒ入洛ス。十三日。山崎ニテ。光秀ト一戦  
大ニ勝。光秀勝竜寺へ入テ。夜中ニ伏見小栗栖ヲ過ルト  
キ。野伏ノタメニ害セラシム。明智左馬助坂本城ニテ自害。其  
黨皆平ク。其後柴田修理亮勝家。羽柴筑前守秀吉。池  
田信輝。丹羽五郎左衛門長秀等相談シ。信忠  
ノ子ニ法師ヲ主君トシ。幼少ノ間ハ信雄ヲ名代トシ。安  
土ニ居シ。信雄ニ尾張ヲサツケ。信孝ニ美濃ヲサツケ。  
其外ノ關國關所ハ勝家秀吉等ノ老臣分取テ。歸國  
シ。秀吉ハ上洛。瀧河。益。上野國ニテ。信長ノ事ヲ聞  
テ。武藏野へ出張シ。北条氏政ト一戦シ。其ヨリ東山



道ヲ經テ尾張長鳴城へ歸ル。又其比甲州騷動ノ河  
虎殺サル。家康公甲府へ入御。北条氏直來テ甲州  
爭新府ヲ戰。氏直敗テ歸ル。信濃モ亦家康公ニ從  
ヒ奉ル。十月秀吉從五位下ニ叙シ。若少將ニ任ス。秀  
吉奏聞シ。信長ニ太政大臣從一位ヲ贈リ。大德寺ニテ  
葬札ヲ修シ。惣見元ト号ス。十一月織田信孝柴田勝  
家ト通シ。信雄秀吉トテ滅ントス。秀吉美濃へ發向。越  
前雪深メ。勝家來救コトアタハス。信孝和睦ヲ乞フ。秀吉  
飯陣ニヨリ勝家秀吉相爭フ。勝家カ姪柴田伊賀守  
勝家ヲ皆テ秀吉ニ從フ。十二月秀吉安土ニ赴テ。幼  
君ニ謁ス。  
十一年正月秀吉江州ニ出張。二月志津嶽ノ邊ニテ。

勝家カ姪佐久間玄蕃盛政ト對陣。四月信孝入勝家  
ニ應ス。秀吉美濃へ赴ントス。盛政進テ秀吉ノ將中川  
頼兵衛清秀ヲ殺ス。秀吉軍ヲカヘシテ。盛政志津嵩  
柳瀬ニテ合戰。勇士七人先懸シ。秀吉繼テ進ム。盛政敗  
軍ノ執ル。勝家カ兵威大ニ衰フ。秀吉勝ニ乘テ。越前へ  
攻入。勝家カ居城北庄ヲ圍ム。勝家自害ス。秀吉美濃  
へ赴テ。信孝ヲ攻。信孝遂ニ討レヌ。五月秀吉敗洛漣  
川一益降參ス。秀吉參議ニ任シ。從四位下ニ叙ス。攝  
州大坂城ヲ築キ移居。今年筑紫ニテ。嶋津義久ト  
龍造寺隆信。肥前有馬ニテ合戰シ。隆信討レヌ。義  
久ヨリ威シ九州ニ振テ。豊後ノ大友ト相戰フ。義久  
剃髮シテ龍伯ト号ス。



十二年三月。織田信雄上。秀吉ト不和。秀吉先。池田勝入。森武藏守長一等ヲシテ尾州へ向シメ。秀吉モツキテ進發。信雄加勢ヲ家康公ニ乞ル。即御進發。小牧山ニ陣シタラシ。秀吉樂田ニ陣ス。四月九日。長久手合戰。秀吉ノ姪秀次敗軍。池田勝入父子森長上討死シテ。家康公大ニ勝利ヲ得タラシ。五月。秀吉兵ヲ引テ美濃へ退ク。七月。蟹江合戰。瀧川一益没落ス。秀吉濃州ヨリ。坂京。家康公濱松へ還御。十月。信雄秀吉和睦。十一月。秀吉大納言ニ任シ。從三位ニ叙ス。十二月。一条内基関白并左府ヲ辞ス。一条右府昭實左府ニ任ス。十三年二月。一条昭實関白ニ任ス。三月。昭實左府ヲ辞ス。近衛信基左府ニ任ス。菊亭晴季右府ニ任ス。秀

吉内大臣ニ任シ。正二位ニ叙ス。秀吉元來其姓氏詳ナラス。信長平氏タルニヨリテ。秀吉モ平氏ト稱ス。是ニ至テ。藤原姓ト稱ス。菊亭晴季懇遇セラレテ。傳奏トナリテ。朝廷ノ事ヲ預リ議ス。同月。秀吉紀州へ進發シ。根来寺ヲ破却ス。四月。秀吉高野山制法ヲ定ム。其後秀吉ノ弟秀長上。姪秀次トヲ遣シ。四國ヲ攻シム。長曾我部元親以下。皆降參シ。四國平均。七月。秀吉征夷將軍ニ任セラレシコトヲ欲シテ。室町ノ義昭入道昌山ヲ請テ。養子トナラシメトシ。望ム。義昭族譜ヲ賤ニシテ同心セズ。秀吉スナワチ菊亭晴季ト議シテ。一条関白昭實ヲシテ。辭退セシメテ。秀吉関白ニ任シ。從一位ニ叙ス。參内ノ時。信雄秀長秀次。前田利家。浮田秀家。扈從其外諸



大名供奉。昭宣公ヨリ以来。藤原ノ嫡流ニアラスレテ。他姓ノ人ノ関白トナルコト。是ヲ始トス。秀吉新ニ姓ヲ改テ豊臣ト称ス。其一族皆豊臣姓ヲ用テ他族ト云トモ恩顧深ケレハ。豊臣姓ヲ賜フ。同年。秀吉越中能登へ進發ス。佐々内蔵助成政降参ス。同年。秀吉ノハカラヒニテ。信雄ノ使者羽柴下総守。遠芴濱松ニ来テ。家康公御上洛ノ事ヲス、ム。御許容ナレ

十四年二月。家康公参議ニ任レ。從三位ニ叙レタマフ。去ヌル永祿九年。從五位下参河守タリレヨリ以来。御官位ノ次第ト、コホラス。公卿ニ昇進レタマフ。此春羽柴下総守再濱松へ来テ御上洛ノ事ヲ申ス。御許容ナレ。五月。関白豊臣秀吉ノ妹。遠芴濱松へ入テ。

嫁娶ノ議アリ。七月。誠仁親王薨ス。陽光院ト謚シ。太上天皇ノ尊號ヲ贈ラル。九月。秀吉ノ母太政所参州岡崎へ来テ。人質トナシヨリテ。家康公御上洛。大坂城ニテ秀吉ニ御對面。十月。家康公中納言ニ任レタマフ。豊臣秀吉長中納言ニ任ス。豊臣秀吉次参議ニ任ス。家康公御飯城。秀吉ノ母飯京。十一月七日。主上御位ヲ皇孫周仁親王ニ譲リタマフ。是ハ陽光院ノ御子ナリ。二十五日。御即位アリ。後陽成院是ナリ。十二日。関白豊臣秀吉太政大臣ニ任ス。正親町院治世ノ年号ハ。永祿十二年。元龜二年。天正十四年。合二十九年ニシテ。讓位ニシテ。太上天皇ト申奉ル。七年スキテ。文祿二年正月五日。崩ス。御歳七十



一トカヤ。秀吉ハ天正十五年筑紫へ發向シ。嶋津義久  
降参レテ九州悉平ス。コレヨリサキニ毛利輝元ハ既ニ飯  
服シヌレバ中國ハ早レヅル。長尾景勝モ上洛シ。北國モ  
從ヌ。十六年四月ニハ聚樂亭へ行幸ヲ成奉リ。繁榮ヲ  
キハス。十八年ニ關東へ進發シ。小田原城ヲ圍テ。北条  
氏政自害。氏直降参シ。其勢ニテ陸奥出羽ニテ打ナヒ  
ク。應仁ノ乱ヨリ以來六十餘州始テ一統ス。文祿元  
年ヨリ朝鮮征伐ノ事ハレマリテ。武名ヲ大明國へホ  
トコレテ。慶長二年八月十八日。享年六十二。伏見城  
ニテ薨セラル。同五年九月濃州關原ノ戦ニ凶賊  
滅レテ。天下ニトクク。家康ハ公ニ歸服シ。太平ヲ  
唱ヘ。武徳ヲ頌ス。メテタカリケル御代ハ猶萬々世  
ニ至ルマデ。天地ト共ニ長久ナルベシ

日本王代一覽卷七終



寬文三曆癸卯孟春日  
書林村上勘兵衛刊行

日本王代一覽自 神武天皇至

正親町院共七帖應若狹國主從四  
品左少將源忠勝朝臣之求考國史  
小說等刪其繁提其要而新撰之以  
呈焉

慶安五年壬辰五月吉日

法眼春齋林恕



春秋之記事也必表以年而繫時繫月繫日然後始備後之作史者皆法焉近日春齊林法眼編輯王代一覽亦每標年月以繫事于其下百世事迹大要可觀焉頃者歆嗣氏偷膽其稿妄填其所闕而年月溷亂譌加訓點而大害義意只要以損其價專射其利而已今也書林村上氏取法眼元稿詳定亥亥表年揭月正謬補脫以行于世購者證此求焉則庶幾知分涇渭而一覽炳人然矣

寬文三年秋七月

心耕隱客書



後始備後之作也者皆法焉近日存  
編輯王代一覽亦每標年月以繫事  
世事迹大要可觀焉頃者欽嗣氏命  
環其所闕而年月潤亂謬加訓導而大  
只要以損其價專射其利而已今  
民取法眼元稿詳定亥水表年揭月正  
以行于世精者說此來者則庶幾知  
一覽炳然矣

年次七月

~~...~~  
~~...~~  
~~...~~  
~~...~~  
~~...~~



